

京都市内遺跡試掘調査概報

平成7年度

京 都 市 文 化 市 民 局

序

山紫水明の恵まれたまち京都は、今、永い歴史の積み重ねを経て、平安遷都1200年より21世紀に向かっている歴史の大きな節目の中にあります。

この文化豊かな京都のまちの埋蔵文化財は、先史時代より時代ごとに積み重ねられた複合した遺跡の中にあり、それらは当時の文化や生活様式を明かにするもので、わが国の歴史や文化の発展を知ることが出来る貴重な国民共有の財産であると認識を致しております。

バブル経済の崩壊後、一旦、土木工事等の開発件数は減少したものの、近年また増加の傾向にあります。各種開発に伴う土木工事につきましては事前に発掘調査・立会調査・試掘調査などの調査を実施し、保存の措置が図れる場合は遺跡を保護し、そうでない場合は記録による保存を行っております。そしてこれらの調査で得られた貴重な歴史資料を後世に伝え、活用してゆく責務があると考えております。

本書は、京都市が文化庁の国庫補助を得て平成7年度に実施した埋蔵文化財調査の概要報告書であります。

発掘調査及び立会調査につきましては、財団法人京都市埋蔵文化財研究所に委託したものであり、試掘調査につきましては京都市埋蔵文化財調査センターが実施したものであります。

最後になりましたが、各調査にご理解とご協力をいただきました市民の皆様及びご指導とご助言をいただきました関係者の方々に心よりお礼を申し上げますと共に、本書が京都の歴史を知るための資料としてお役に立ていただければ幸甚に存じます。

平成8年3月

京都市文化市民局
局長 山田 富 男

例 言

- 1 本書は、京都市が文化庁国庫補助を得て実施した平成7年度の京都市内遺跡試掘調査概要報告書である。
なお、本書は平成7年1月から12月まで実施した試掘調査の概要を報告している。
- 2 試掘調査を実施した総ての地区・所在地・調査日・調査概要については、試掘調査一覧表に掲載（29～31頁）している。
- 3 本文の執筆者は、各章の末尾に記している。
- 4 本書に使用した地図は、本市の都市計画局発行の都市計画基本図（縮尺1/2,500）を複製して調整したものを掲載している。なお図版に使用した地図の縮尺は以下のとおりである。
図版1～13 1/8,000 図版14～19 1/10,000
- 5 本書に使用した土壌色名は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修「新版標準土色帳」に準じた。
- 6 本書作成、調査実施にあたっては、京都市埋蔵文化財調査センターが担当し、次の機関の協力を得た。
京都市文化市民局文化部文化財保護課・（財）京都市埋蔵文化財研究所

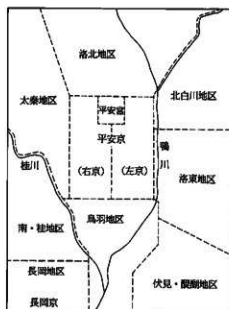


図1 調査地区割図

目 次

	頁		頁
I 試掘調査の概要	1	V 伏見城跡	15
1 調査の概要	1	1 調査の概要	15
2 地区別調査概要	2	2 遺 構	16
3 ま と め	6	3 出土遺物	17
		4 ま と め	19
II 平安宮大宿直跡	7	VI 伏見城跡	20
1 調査の概要	7	1 調査の概要	20
2 遺 構	7	2 遺 構	21
3 遺 物	8	3 出土遺物	22
4 ま と め	10	4 ま と め	23
III 平安京右京四条三坊十三町跡	11	VII 中久世遺跡	24
1 調査の概要	11	1 調査の概要	24
2 遺構・遺物	11	2 遺構・遺物	24
3 ま と め	12	3 ま と め	26
IV 史跡西寺跡	13	VIII 尼吹ノ谷窯跡	27
1 調査の概要	13	1 発見の経緯	27
2 遺構・遺物	13	2 採集遺物	28
3 ま と め	14	3 ま と め	28
		報告書抄録	32

図版目次

- 図版1 平安宮
- 図版2 左京北辺・一・二・三条 一・二坊
- 図版3 左京北辺・一・二・三条 三・四坊
- 図版4 左京 四・五・六条 一・二坊
- 図版5 左京 四・五・六条 三・四坊
- 図版6 左京 七・八・九条 一・二坊
- 図版7 左京 七・八・九条 三・四坊
- 図版8 右京北辺・一・二・三条 三・四坊
- 図版9 右京北辺 一・二・三条 一・二坊
- 図版10 右京 四・五・六条 三・四坊
- 図版11 右京 四・五・六条 一・二坊
- 図版12 右京 七・八・九条 三・四坊
- 図版13 右京 七・八・九条 一・二坊
- 図版14 植物園北遺跡・広沢古墳群・福西古墳群・榎原麿寺跡・法性寺跡
- 図版15 白河街区跡・元稻荷瓦窯跡・京都大学北部構内遺跡・柘ノ杜遺跡・
史跡醍醐寺境内
- 図版16 中臣遺跡・旭山古墳群・大徳寺境内（史跡予定地）・仁和寺院家跡・古墳群・
常盤東ノ町古墳群・広隆寺旧境内・上久世遺跡・中久世遺跡
- 図版17 伏見城跡
- 図版18 鳥羽離宮跡
- 図版19 長岡京跡

挿 図 目 次

	頁		頁
図1 調査地区割図	例言	図14 検出石垣の立・断面実測図	17
図2 調査位置図	7	図15 石垣南壁土層断面図	18
図3 遺構配置図・断面図	8	図16 石垣断面略図	18
図4 遺物実測図	9	図17 調査位置と推定伏見城北外堀跡	20
図5 調査位置図	11	図18 敷地平面並びにトレンチ位置図	21
図6 トレンチ配置図	12	図19 検出遺構平・断面実測図	22
図7 遺構配置図・断面図	12	図20 出土遺物実測図	22
図8 調査位置図	13	図21 南北溝跡断面土層図	23
図9 遺構略図	13	図22 調査位置図	24
図10 土器実測図	14	図23 溝跡土層図	24
図11 調査位置図	15	図24 遺構実測図	25
図12 調査地平面図とトレンチ位置図	16	図25 土器実測図	26
図13 検出遺構と断面図	17	図26 竈跡位置図	27
		図27 遺物実測図	28

表 目 次

	頁
表1 地区・年度別試掘調査実施件数一覧表	1
表2 試掘調査一覧表	29～31

写 真 目 次

	頁
写真1 柱穴P3（西から）	12
写真2 調査地全景（東から）	14
写真3 石垣A-A'（北から）	18
写真4 石垣B-B'（南から）	18
写真5 石垣1の完掘状況（西北から）	18
写真6 石垣1（南から）	18
写真7 石垣2完掘状況（北から）	19
写真8 遺構完掘状況（北上から）	23
写真9 調査地全景（北から）	26
写真10 溝2土器出土状況（西から）	26
写真11 窯跡現状（西から）	27

I 試掘調査の概要

1. 調査の概要

京都市内に存在する周知の埋蔵文化財包蔵地内で行われる各種土木工事業、史跡指定地内の現状変更申請に伴う工事計画に先立ち、埋蔵文化財の残存状況を事前に掌握する目的で行われる試掘調査は、平成3年度から京都市埋蔵文化財調査センターが実施してきたところである。

本書は、当センターが平成7年(1～12月末)の1年間に実施した、国庫補助を伴う試掘調査の結果をまとめた概要報告である。

試掘調査を実施した件数は、現状変更に伴う史跡指定地内の3件を含めて合計84件である。

ここでは試掘調査地区内の遺跡で実施された発掘調査の成果も合わせて簡略に紹介するが、特に調査機関名を明記していないものは(財)京都市埋蔵文化財研究所が実施したものである。

表1 地区・年度別試掘調査実施件数一覧表

分類	区域名	1～3月末	4～12月末	計	発掘指導	設計変更
埋蔵文化財	平安宮地区	2	8	10		
	平安京左京地区	0	9	9	3	
	平安京右京地区	8	8	16	2	
	太秦地区	2	4	6	1	
	洛北地区	1	2	3		
	北白川地区	0	4	4		
	洛東地区	2	3	5		
	伏見・醍醐地区	1	6	7	1	
	鳥羽地区	5	8	13	1	
	南・桂地区	1	3	4		
	長岡京地区	1	3	4		
	(小計)	23	58	81	8	
史跡指定地 指定予定地	醍醐寺境内	0	1	1		
	西寺跡	0	1	1		1
	大徳寺境内	0	1	1		
	(小計)	0	3	3		1
	合計	23	61	84	8	1

2. 地区別調査概要

平安宮地区

平安宮地区で実施した試掘調査場所を宮殿・官衙別でまとめると、朝堂院跡1・豊楽院跡1・内裏跡の南1・中和院跡1・大蔵省跡1・職御曹司跡(聚楽第跡)2・宴松原跡1・茶園跡(聚楽第跡)1・大宿直跡(聚楽第跡)1の合わせて10件となる。

この地区においては、平安時代の整地土や遺物包含層などを検出した場所もあるが、聚楽第跡など中世以降の攪乱を受けた場所も多く、今回は発掘調査を指導したものはない。

中立亮通智恵光院交差点の南東角地にあたる大宿直(聚楽第)跡の試掘調査では、敷地中央付近から平安時代前期の土器や瓦を投棄した土壌を検出し、多数の遺物が出土したため、この概報に報告している。

そのほかの調査では、千本通旧丸太町通西入下るの豊楽院跡の立会調査で、正殿である豊楽殿の東方にあった酒置櫻跡推定地付近から、基壇を形成する凝灰岩の切り石を検出したことから部分調査を実施し、豊楽院を復元する上で重要な成果を上げている。また内裏の東方にあたる釜所・侍従所跡の比定地及び聚楽第跡に当たる智恵光院通下立売の北東地区の発掘調査では、当該地は従前から聚楽第の東西堀跡と考えられていたが、堀跡は検出されず、平安時代の土壌や、中・近世の井戸跡や土取り穴などが検出されている。

平安京左京地区

左京地区では合わせて9件の試掘調査を実施し、そのうち重要遺構が見つかった3件について発掘調査を指導した。

堀川通竹屋町下る東側の二条二坊十一町跡の現場では、鎌倉時代から近世に至る多数の遺構(井戸・土壇・柱穴・溝など)を検出したため、発掘調査を指導した。また柳馬場通三条上るの三条四坊十二町跡では、室町時代から桃山時代にかけての複数の遺構及び多数の遺物が検出されたことから発掘調査を指導した。さらにJR京都駅(北)前の東側にあたる八条三坊十四町跡では、残存良好な遺物包含層や、中世の遺構面を検出したことから発掘調査を指導した。

平安京左京地区区内で行われた発掘調査は、上記の発掘調査を指導した場所を含め、10件あまりの発掘調査が実施されており、様々な遺構や遺物が見つかっている。

(財)京都市埋蔵文化財研究所が担当し、平成5年から始められたJR京都駅舎建替工事に伴う八条三坊六町・十一町・十四町跡の発掘調査は、現場での建物解体や掘削工事の合間をぬぎ厳しい条件の調査を克服して、平成7年3月に至って調査を完了した。

発掘調査は合わせて4,000㎡余りを対象に行われ、室町小路の路面跡や、八条院町に関係する町屋遺構など、多数の遺構と多様な遺物が出土し、JR京都駅周辺の平安時代から中世へかけての人々の生活の変遷を復元する上で重要な成果を上げている。

また同研究所が行った七条二坊跡に当たる西本願寺の北側敷地での発掘調査では、本圀寺跡に

関係する室町時代の南北堀跡（幅6m、深さ2m）が36mにわたって検出され、さらに調査で検出された土壌内からは17世紀前半の土師器が大量に出土している。

さらにその南で行われた西本願寺境内の発掘調査では、安土桃山時代から江戸時代にかけての庭園跡が良好な状態で検出されている。

また北辺三坊跡に当たる、中立売通新町角にある京都市立新町小学校の調査現場からは、平安時代から中世にかけての溝跡・石室・土器溜めなど多数の遺構や、金箔の鱗瓦の破片のほか、完形の中国製白磁四耳壺などが出土した。

そのほか、関西遺跡調査会が実施した竹屋町通猪熊西入の二条二坊跡の発掘調査では、大炊御門大路側溝跡から多数の土器がまとめて出土し、また柳馬場通三条上で古代文化調査会が行った三条四坊跡からは、中世から江戸時代にかけての町屋遺構や陶磁器などの遺物が多数出土している。

平安京右京地区

右京地区では17件の試掘調査を実施し、そのうち重要遺構が見つかった一条三坊四町跡（西ノ京南大御門町）と一条三坊十二町跡（西ノ京馬代町）の2件については、掘立柱建物跡や溝跡が検出されたため発掘調査を指導した。

また四条三坊十三町跡（西院小米町）の試掘調査では、計画建物の端で平安時代前期の掘立柱建物跡を検出したため、試掘調査を延長して遺構検出を行い、結果は当概報に報告している。

そのほか史跡西寺跡の東小子房推定地の試掘調査では、極めて浅い場所から基壇跡とみられる遺構が見つかったことから、設計変更による保存を要請するとともに、当概報に調査内容を報告している。

またこの地区で行われた発掘調査は、上記の試掘調査で発掘調査を指導したものを含めて6件以上実施されている。その結果、それぞれの調査地点からは比較的浅い場所で、掘立柱建物跡や条坊を区切る溝跡などを検出しており、右京地区の遺構検出面は浅く、また良好な場所が多いことを裏付けている。

太秦地区

この地区では右京区常盤柏ノ木町の古墳群1件、常盤東ノ町古墳群2件・仁和寺院家跡1件・広隆寺旧境内及び常盤仲之町遺跡1件・広沢古墳群1件の合わせて6件の試掘調査を行った。

東映太秦映画村内に当たる広隆寺旧境内・常盤仲之町遺跡の試掘調査では、奈良時代後期から平安時代にかけての集落跡（柱穴・住居跡）を検出したため、発掘調査を指導した。

また、以前から古墳として遺跡地区に掲載されていた広沢池の南側にある広沢児童公園内東端の墳丘状の高まりは、試掘調査の結果、古墳ではなく単なる盛土であることが判明した。

この地区で実施された発掘調査で特に注目されるものは、鳥羽天皇の中宮待賢門院ゆかりの法金剛院旧境内に当たるJR山陰線の花園駅西南で見つかった塔跡基壇と、そのすぐ近くで検出さ

れた庭園（洲浜を伴う園池）遺構である。また、さらに下層からは法金剛院の前身寺院である天安寺のものとみられる礎石建物跡も見つかっている。

渚北地区

この地区では4件（元稻荷瓦窯跡1件・植物園北遺跡2件・史跡指定予定地の大徳寺境内1件）の試掘調査を行った。

岩倉橋枝町の元稻荷瓦窯跡の試掘調査では、平安時代後期の瓦窯に関係する灰原を見つけている。そのほかの試掘調査では有力な遺構・遺物は検出してない。

この地区で実施された発掘調査では、白梅町交差点の北方にある北野遺跡に当たる衣笠小学校から、飛鳥時代中期から奈良時代後半頃の溝跡や堰遺構のほか、平安時代の回廊状建物跡も見つかっており、南方にある北野廃寺（野寺又は常住寺）との関係が目される。

また(財)京都府埋蔵文化財調査研究センターが府公舎建設に伴って行った植物園北遺跡（左京区下鴨北之町）の発掘調査では、弥生時代後期から古墳時代にかけての竪穴住居跡6棟を検出し、竪穴の土壁を支えるための杭跡と考えられる遺構が見つかっている。

そのほか試掘調査以外の成果として、左京区岩倉上蔵町で、地元の小学生が土器片を持ったことがセンターに情報として入り、その遺跡確認のために現地踏査を行った結果、山間部の通称「尼吹ノ谷」の奥から平安時代の窯跡を発見した。

谷川沿にあるこの窯の灰原からは、須恵器・灰釉陶器・緑釉陶器などの土器が、雨水に流されて下流に多数散布していたことから、遺物を現地踏査時に採集し、実測図をこの概報に掲載している。

北白川地区

この地区では4件（京都大学北部構内遺跡1件・白河街区跡1件・法勝寺跡1件・尊勝寺跡1件）の試掘調査を行った。

このうち、御蔭通と疏水が交差する西南の宅地内で行った京都大学北部構内遺跡からは、奈良時代及び室町時代の遺物包含層を検出し、地形の高くなる東方になんらかの遺構が存在する確率が高いことが明らかとなった。

熊野神社交差点の北東で行った白河街区跡の試掘調査（聖護院山王町）では、後世の擾乱が多い場所であったが、部分的に鎌倉時代の土壌を検出している。

法勝寺跡では、動物園北側にある金堂跡に取り付く推定東軒廊の東方外部分の試掘調査（岡崎法勝寺町）を行った結果、平安時代中期の土壇1基と、下層からは古墳時代後期の柱穴3基を検出した。この現場では工事に際して立会調査を指導し、改めて下層遺跡の遺物が出土している。

この地区における発掘調査では、過去の調査でその存在が確認されていた北白川廃寺塔跡のある個人所有の駐車場で発掘調査が行われた。

この塔跡は、一辺13.8mの瓦積基壇を後世に石を積んで修築された地上式心礎を持つもので、

以前に確認されていた南側の階段のほかにも北側にも階段が設けられていたことが判明し、調査後遺構は埋め戻して保存されている。

洛東地区

この地区では5件(旭山古墳群1・中臣遺跡3・法性寺跡1)の試掘調査を実施したが、発掘調査に至る遺構・遺物は検出していない。なお、山科区にある窯跡では分布調査を実施した。

山科区御陵黒岩の「日ノ岡堤谷須恵器窯跡」で実施したボーリングステッキを使った分布調査では、窯に伴う灰原を発見したため、造成工事前に発掘調査を指導した。

この窯跡の調査は、付近に点在する須恵器窯跡では初めての本格的な発掘調査で、7世紀代の須恵器窯跡1基が検出され、須恵器が多数出土した。

そのほか、この地区で行われた発掘調査では、中臣遺跡(山科区栗栖野打越町)から後期旧石器時代の国府型ナイフ形石器(長さ8.5cm)が出土しており、注目される。

伏見・醍醐地区

この地区では8件(栢ノ杜遺跡1件・史跡醍醐寺境内1件・伏見城跡6件)の試掘調査を実施した。

史跡醍醐寺境内(栢杜遺跡)隣接地における試掘調査では、時期不明の堤状の遺構以外に顕著な遺構・遺物は確認できなかった。

伏見城跡の試掘調査では、大名屋敷に関係すると見られる石垣や、溝跡などを2箇所で検出したことから、試掘調査成果として、この概報に取り上げて報告している。

この地区で行われた発掘調査で特に注目されるものは、伏見区桃山町遠山にある京都府立養護学校北隣の宅地造成工事に伴う黄金塚2号墳の調査である。

センターが2回にわたって実施した試掘調査の結果、2号墳後円部の墳丘裾部分から円筒埴輪4個を検出し、後円部墳丘裾を巡る埴輪列が残存していることが判明した。

その結果、墳丘部分の発掘調査が必要と判断し、調査は花園大学へ依頼、同大学の考古学研究室が中心となって黄金塚2号墳発掘調査団が組織され、本格的な発掘調査が実施された。

発掘調査の結果、4世紀後半から5世紀頃の前方後円墳(後円部直径74m)であることが判明し、調査区内からは墳丘裾に並べられた150本余りの円筒埴輪や盾形埴輪(9本の円筒埴輪を挟んで10本目に盾形埴輪1本を置く)が元位置で出土し、遺物整理の段階では、盾形埴輪の踏部分から線刻人物画が見つかり話題となった。

鳥羽地区

この地区で行った試掘調査13件は総て鳥羽離宮跡に係るものである。

いずれの試掘調査も流路や湿地状地形を確認した程度で、有力な遺構・遺物なく、発掘調査を指導したものはないが、平安時代後期頃の地業跡を確認したため、設計変更を指導して遺構保存

を図ったものが1件ある。

南・桂地区

この地区では4件（櫻原鹿寺跡1件・上久世遺跡1件・中久世遺跡1件・福西古墳群1件）の試掘調査を実施した。

いずれも有力な遺構を検出できず、発掘調査を指導したものはないが、中久世遺跡（久世殿城町）の試掘調査では、弥生時代の溝や奈良時代とみられる掘立柱建物跡を検出したため、調査を延長して遺構検出を行い、その結果はこの概報に報告している。

長岡京地区

この地区では長岡京跡で4件の試掘調査を実施した。

久世東土川町では古墳時代とみられる東西の溝跡を確認したが、そのほかでは遺跡が後世の氾濫域を受けた場所も多く、発掘調査は指導していない。

3. まとめ

以上のとおり当センターが実施した試掘調査の結果と、各調査機関が実施した立会・試掘・発掘調査の成果を交え平成7年の概略を簡略に纏めてみたが、当センターが平成7年に実施した試掘調査の件数は84件で、そのうち、史跡指定地及び指定予定地内の現状変更申請に伴う試掘調査が3件ある。

この概報には、発掘調査を指導した以外の試掘調査で遺構・遺物などを検出し、特に成果のあった平安京右京跡・西寺跡・中久世遺跡・伏見城跡の各遺跡調査結果について報告している。

また市民が偶然に遺物を発見したことがきっかけで、当センターが現地踏査を行い、平安時代の窯跡を発見した左京区岩倉上蔵町の「尼吹ノ谷窯跡」表採遺物についても紹介している。

平成7年に行われた京都市内の発掘調査で特筆されるものは先述のとおり、左京区北白川東瀬ノ内町の北白川鹿寺塔跡や、右京区花園から見つかった法金剛院の三重ノ塔跡と園池跡遺構、さらにその下層から見つかった前身寺院の天安寺関係の礎石建物跡がある。

そのほか山科区御陵黒岩で検出された7世紀代の「日ノ岡埴谷須恵器窯跡」からは、コンパス状器具を使った珍しい同心円文を施した土器などが出土した。

また伏見区桃山町遠山で発掘調査された黄金塚2号墳は、京都市周辺では極めて珍しい築造年代が、4世紀後半から5世紀頃の前方後円墳であることが判明、また後円部直径74mと墳丘規模も明らかとなり、さらに後円部墳丘裾に並べられていた円筒埴輪や盾形埴輪の配列の復元のほか、極めて珍しい線刻人物画なども見つかっており、古墳時代前期における山背地方の勢力分野や、その歴史的背景を理解する上で極めて重要な調査成果となった。

(堀川敏夫)

II 平安宮大宿直跡 No. 26

1. 調査の概要

調査地は、上京区中立売通裏門東入多門町440-6・7番地で、智恵光院通と中立売通との交差点南東隅を占めている敷地である。ここは、平安宮内に設置された内裏警護人の詰所である大宿直跡の北端中央部分に推定されている。『大内裏圖考證』によると、この施設は方四十丈を占め、長和3年(1014)に焼亡したと伝えられる。また、桃山時代に当たる天正14年(1586)に豊臣秀吉によって築かれた聚楽第の範囲跡でもある。

この敷地面積130㎡の当該地に自社ビルの建設が計画されたため、平成7年12月8日に試掘調査を行った。調査は計画建物の基礎への影響を考え、敷地のほぼ中央に南北に長いトレンチを設定し、遺構の広がりに合わせて暫時西側に拡張する方法を採用した。

調査の結果、トレンチ中央に大量の土器を含む平安時代前期の土壌を検出したため、コンテナ3箱分の土器を回収した後、実測・写真撮影を行って調査を終了した。調査面積は約15㎡である。

2. 遺構

層序 調査地の基本層序は、地表下20cmで黄褐色泥砂、同33cmで近代の遺物を含む灰黄褐色泥砂、同63cmから黄褐色粘質土(聚楽土)にかわり、同103cmで褐色の礫層になる。平安時代の遺

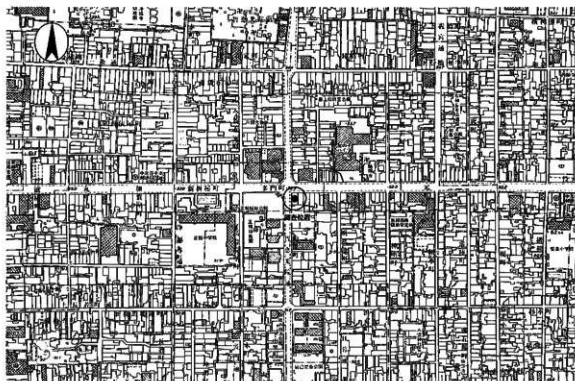


図2 調査位置図 (1/5,000)

構は黄褐色粘質土層上面にて検出した。この調査によって検出された遺構は、平安時代前期の土壇2基、近世の東西溝1基であった。

土壇1 トレンチ中央部に位置する南北2.2m、東西2.2m以上、深さ39cmを測る槽形鉢状の土壇である。遺構の埋土は黒褐色泥砂であり、土器片・瓦片及び大量の炭が埋土中に含まれていた。しかし、焼土は含まれておらず、また、土壇周辺の黄褐色粘質土も赤変等の痕跡は認めることが出来なかった。

土壇2 土壇1の南東に近接する土壇であり、東西60cm以上、南北1.3m以上を測り、廃棄土壇と考えられる。遺物は平安時代前期のものを含むが、土壇1に比べるとその出土量は極めて少ない。

溝3 トレンチ南部分を東西に走る幅70cm、深さ40cmの溝である。出土遺物から近世初頭のものと考えられる。

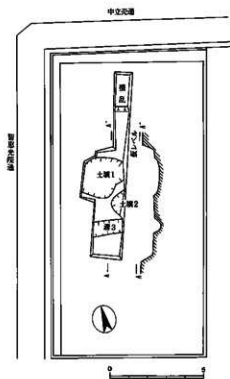


図3 遺構配置図・断面図 (1/200)

3. 遺物 (図4)

土器器 碗1は外面へラ削りが施されている。杯は外面へラ削り調整を施す6と、口縁部と成形時の指頭圧痕を削り残す2の2種類を認めることが出来る。皿には外面へラ削り調整の4・5、口縁部を明瞭に削り残す7、ナデ調整で終わる3で代表される3種類が認められる。高杯の蓋22は外面に磨き調整を施すものの割密ではなく、内面は磨かれない。高杯の脚部25は断面七角形を示すとみられ、縦方向のへラ削りを施し、裾部は粗い磨き調整がなされている。壺23・24はいずれもが外反し内端部の肥厚する口縁部をもち、外面に叩き調整が施される。

須恵器 杯B蓋8・9は器高の低い扁平な器形で、口縁端部の屈曲は著しい。壺蓋10の天井部と口縁部の境界は甘い、11の境界は鋭く、口縁端部外面に段を持つ。杯Aは底部の切り離しはへラ起こしによるが、体部の調整に12・13の2種類を認めることができる。12の体部の器壁は整えられ、口縁端部の内側に段を持つ一方で、13は体部に成形時のナデ調整の痕跡が残り、焼成は軟質である。杯B14・15は断面方形の高台が体部との境界に近接して付き、底部はへラ起こしされる。皿16は低い方形の高台が平らなへラ起こしの底端部につけられ、その体部は弓なりに外反する。壺は口縁部が縁帯を形成し、叩き調整を体部に使用する27と、上方に立ち上がる口縁部と体部の調整にナデを使用する26が存在する。鉢28は成形時のナデ調整が体部に残り、口縁部は短く外上方に伸び、端部を方形に収める。

緑釉陶器 釉調が淡黄緑色の皿17と、濃緑色の碗18はいずれも京都産と考えられる。黄緑色の高台片19は外方に踏ん張る貼り付け高台をもつ。甌蓋20は黄緑色の釉調を呈するが、内面への施

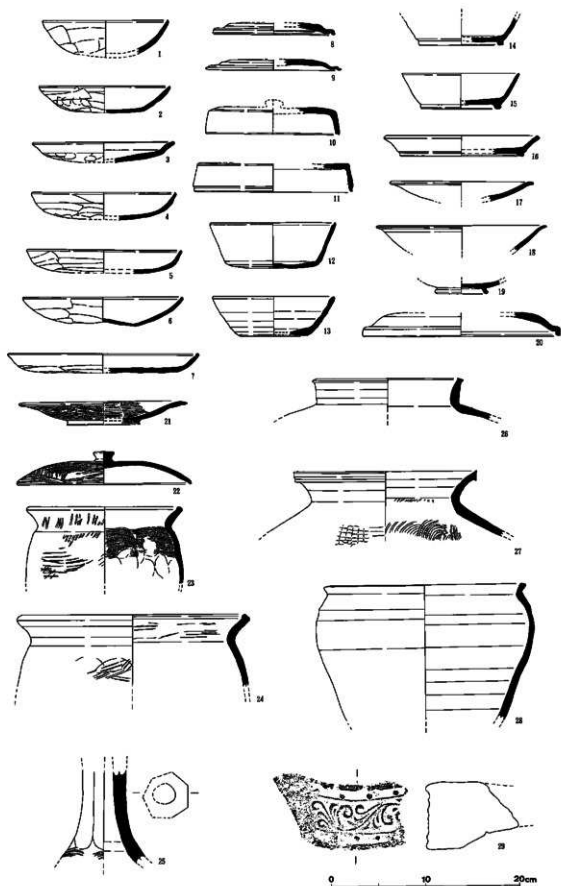


图4 遗物实测图 (1/4)

釉はない。また、外面天井部をヘラ削りする。

黒色土器 皿21は内外面ともヘラ磨きが施され、黒色処理は外面の口縁部に及ぶ。高台は、断面三角形のものである。

瓦 細かく砕けた平瓦、丸瓦は多く出土するものの、完形品はなく、出土した軒平瓦は実測した1点である。この軒平瓦29は唐草文が外行2転半式で蕨手の太いものであり、外区に珠文を最低7個確認することが出来る。これと同文のものが西賀茂角社瓦窯跡や大阪府吹田市の岸部瓦窯跡で認められる。

4. まとめ

この調査まで立会調査10件、試掘調査6件が大宿直跡で実施され、江戸時代の遺構しか検出されていなかったが、初めて平安時代のしかも前期の遺構を検出することが出来た。土墳1から出土した遺物は全面ヘラ削りを施す土師器皿(4・5)・杯(6)・甕(23・24)・蓋(22)・高杯(25)、須恵器蓋(11)・鉢(28)等の一群と、削り残しの認められる土師器皿(7)・杯(2)・ナデ調整のみの土師器皿(3)、須恵器杯蓋(8・9)・杯B(14・15)、黒色土器(21)、京都産の緑釉陶器(17・18)等の一群の主として2時期のものが混ざっていた。前者は平安京1期中(9世紀前半)、後者は同1期新〜2期古段階(9世紀中頃〜後半)と考えられる。また、緑釉陶器20は調整方法や釉調から緑釉単彩陶器の系譜を引くと考えられ、さらに時期が遡る可能性もある。

このように、単一時期の一括資料ではないが、比較的まとまった9世紀代の資料が得られたことで、従来不明瞭であった平安宮北東部の施設利用の解明に端緒を開くものといえる。ただし、文献に認められる長和3年(1014)に伴う火災層は今回の調査でも確認されておらず、今後の課題である。

(馬瀬智光)

謝辞 出土土器に関しては小森俊寛氏、遺瓦に関しては鈴木久男氏に御教示を頂いた。また、大宿直跡の性格に関して関口力氏の手を煩わした。

Ⅲ 平安京右京四条三坊十三町跡 No. 41

1. 調査の概要

調査地は、右京区西院小米町に所在する駐車場跡地であり、敷地面積は1,211㎡を測る。ここにマンション建設が計画されたため、平成6年12月7日、平成7年1月25・26日の3日間にわたって調査を行った。

当該地は平安京の条坊復元モデルから右京四条三坊十三町に推定されており、4箇所のトレンチを設定して調査を進めたところ、平安時代と考えられる掘立柱建物跡1棟を検出することができた。調査面積は約121㎡であり、掘立柱建物の延長部分は南側隣接地及び計画建物の範囲外に延びると考えられる。

2. 遺構・遺物

層序 調査地の基本層序は、地表下110cmまで造成土、以下、旧耕作土（厚さ15cm）、平安時代の遺物包含層である暗褐色粘質土層（厚さ5cm）が続いている。この下層の地表下約130cmに、遺構面を形成する褐色粘質土層が存在する。ただし、1・2トレンチの大部分では、旧耕作土下に泥濘堆積である褐色砂礫層が広がっており、遺構を確認することはできなかった。

掘立柱建物 1トレンチ西端で検出された柱穴P4の並びを確認するために、3・4トレンチを拡張したところ、東西2間以上×南北5間以上の南北棟1棟を検出した。各柱穴の心々間隔は桁行（南北）方向で3mの等間隔、梁行（東西）方向で5.7mを示す。柱掘形は一辺1.05m～1.30mを測る方形、ないし長方形で、埋土は明黄褐色粘質土と黒色粘質土がブロック状に入る。



図5 調査位置図 (1/5,000)

これは、柱穴掘り下げ時に排出された残土を再度、柱の根固めに埋め戻したものと考えられる。柱あたりは直径約40cmを示し、黒褐色粘質土の埋土をもつ。これら柱穴のうち、P2では、底面から木柱残片とみられる木片が認められた。また、柱抜き穴をP2・3・5・8・9の5箇所、柱穴で確認したが、P9を除き、いずれも建物の中心と反対方向（P5は南方向）を向いていた。P9の抜き穴は建物内側を向くが、妻側の中央に柱が認められないため、建物はさらに南側に続くと考えられる。P2・3・5の各柱抜き穴から平安時代の瓦片が出土したが、実測図を掲載できるものはなかった。

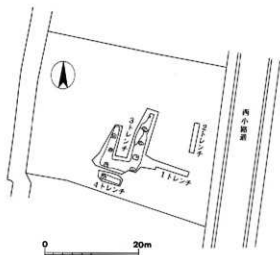


図6 トレンチ配置図 (1/800)

調査地を含む四条三坊十三町の宅地利用については判然としない。今回検出した建物は柱の掘形や間数から大型建物とみられ、単独で存在していた可能性は低く、周辺の調査の進展を期待したい。また、柱抜き穴の方向は建物の解体・移動の工程を考える良好な資料になると考える。

3. まとめ

調査地を含む四条三坊十三町の宅地利用については判然としない。今回検出した建物は柱の掘形や間数から大型建物とみられ、単独で存在していた可能性は低く、周辺の調査の進展を期待したい。また、柱抜き穴の方向は建物の解体・移動の工程を考える良好な資料になると考える。

(馬瀬智光)

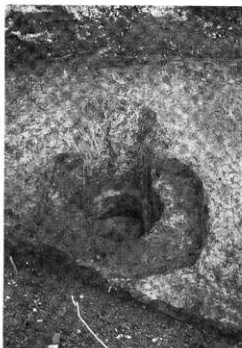


写真1 柱穴P3 (西から)

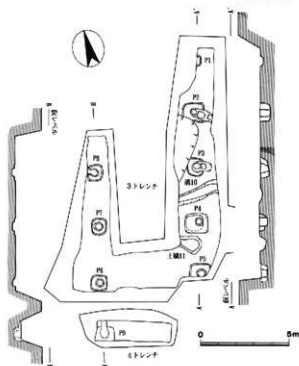


図7 遺構配置図・断面図 (1/200)

IV 史跡西寺跡 No. 49

1. 調査の概要

調査地は西寺児童公園の東側に隣接する南区唐橋西寺町63番地である。当地に住宅2棟の建設が計画されたが、当該地が史跡西寺跡の指定地内（東小子房推定地）であるため文化財保護課と埋蔵文化財調査センターとで平成7年11月17日に試掘調査を実施した。

調査は、東西方向のトレンチ（1トレンチ）を1箇所とサブトレンチ（2トレンチ）を補足的に1箇所設定し、小子房の基壇と推定される土盛りを確認した。

2. 遺構・遺物

1トレンチの基本層序は地表下数cmで焼土・焼け瓦・土器類を含む整地層が厚さ5cm前後堆積する。その下層は堅く締まった明黄褐色泥砂で、10cm程度の厚さがある。以下、地山の暗褐色泥砂・灰色砂の堆積である。

整地層 焼土を含む整地層は、出土遺物から正暦元年(990)に西寺が焼けた後の伽藍整理に伴うものと推定できる。この整地層上面では、トレンチ東端と東端から西へ1.9m離れた2箇所の地点で集石群を認めた。東端部の集石は雨落ち、他の集石は礎石下の根石とも考えられ伽藍焼亡後の再建建物の可能性もあるが、詳細は不明である。

小子房基壇 整地層の下層は、断面観察などから小子房の基壇と推定でき、トレンチ両端部で基壇縁の落ち込みを認めた。化粧材などは認められなかったが、基壇西縁の落ち込み部分の埋土から凝灰岩片が出土した。



図8 調査位置図 (1/5,000)

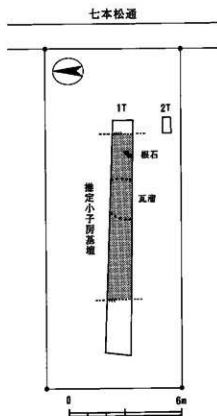


図9 遺構略図 (1/200)

基壇の東西長は約8.8m、高さは約0.2mある。この基壇は地山の泥砂層の上に明黄褐色泥砂を盛土して築造しているようである。

基壇東縁から1.1mの地点には30cm前後の河原石が2個認められ、礎石据付のための根石と思われる。またトレンチ中央部で直径2m程度の瓦溜を検出した。

なお、2トレンチは基壇東縁の検出を目的として設定したが基壇東縁は認められず、地山の灰色砂層上面まで焼土・焼け瓦の整地層が堆積しているのみであった。

基壇東縁及び西縁の落ち込みからは、焼土・炭に混じって瓦類・土器類が若干量出土した。瓦類は丸瓦・平瓦2袋、土器類は土師器（皿・甕）、須恵器（甕）、緑釉陶器（碗）、灰釉陶器（皿・碗）など1袋である。図示した土器類は、いずれも基壇西縁の落ち込み部から出土したものである。

1は土師器の皿で口径13.5cm、2は緑釉陶器の碗、3・4はともに灰釉陶器の碗で口縁端部が外反する。3は口径13.4cm・器高3.9cm、4は口径17.2cmある。

3. まとめ

調査地に隣接する南側の駐車場は、かつて昭和48年9月に発掘調査が行われ、

推定小子房基壇と礎石据付のための根石を5箇所で見つけている。今回の調査で小子房基壇がさらに北方へ続くことが確認された。なお、当地に計画の建物については協議の結果、設計変更を行い、遺構保存の措置が図られた。

(長谷川行孝)



写真2 調査地全景（東から）

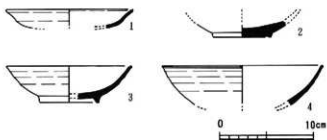


図10 土器実測図（1/4）

V 伏見城跡 No. 68

1. 調査の概要

試掘調査場所は、京都府立桃山高等学校の東方にある桃山丘陵西斜面の不定形な土地（伏見区桃山町下野29-1ほか）で、すぐ東に治部池、北方には宮内庁書陵部管理の桓武天皇陵がある。

面積約2,000㎡余りの敷地中央付近には、南北方向に東と西で高低差7m余りの急な西下がりの法面が存在し、地盤の高い方は治部池西方にある「下野」バス停留所の道路に接している。

現状は畑地及び竹藪で、住宅開発に先だって杭打ちを伴う大型擁壁工事が計画されたため、事前に試掘調査を9月25・26日の両日に実施し、法面裾部分から西向きの南北石列を検出した。

さらに工事着工後、杭打ち工事の最終段階で、法面下方の末試掘調査部分から大きな石垣が偶然発見され、現場からの通報を受けて確認した結果、伏見城に関係する西向きの南北石垣であることが判明した。

発見石垣部分は杭打ちの最終工事箇所で、設計や工事変更は困難と判断、工事関係者と協議を行って杭打ち工事を一時中断してもらい、11月27・28日の両日に発見石垣の調査を実施した。

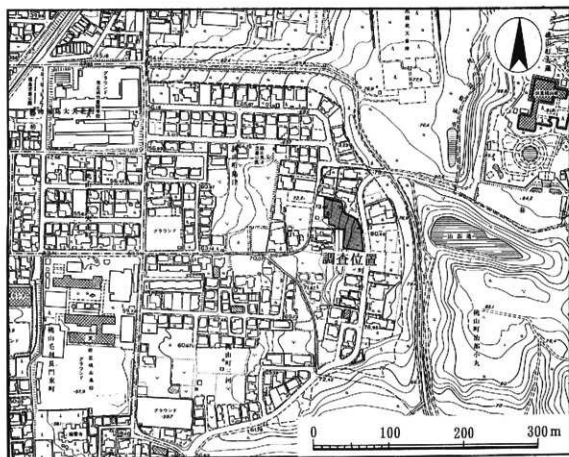


図11 調査位置図 (1/5,000)

2. 遺構

最初に実施した試掘調査では、法面裾野部分の浅いところから、西向きで石垣としては前面がやや不揃いな南北方向の石垣1を検出した。

この石垣1は、南北方向にトレンチ2,4,5を設けて範囲確認を行った結果、斜面の裾部分に平行して東西に20m以上に亘って存在することが明らかとなった。

石材は一辺が1mを越えるものもあるが、一般的に伏見城に使用されている花崗岩を矢割りした石材ではなく、一見して庭園に使用するような自然石が主体で、南側は東の法面側に向かって弧を描いて曲り、途中でとぎれてしまうことが判明した。

またこの石垣1の一段下がった西側にも、小ぶりな石列(延石)が平行して存在することが判明したが、この石列は石垣1に伴う西側の縁石とみられる。

この下方にある石列の西側一帯には、地表下約1m付近に焼土が一面に広がっており、この西方には、かつて火災に遭った大名屋敷の建物が存在した可能性を含むが、今回の造成計画場所の西外側となるため、その部分の遺構検出はできなかった。

一方、石垣2は、工事中着工後、敷地内の杭打ち工事最終段階で、地下に障害物があって杭打ちができなため、業者が周囲を掘削したところ、法面下約2.5mのところから南北方向の石垣が偶然発見されたものである。ここは最初の試掘調査段階では竹林の生えた法面であったため、トレンチが設定できなかった場所である。

検出した石垣2は、西下がりの法面近くで、先の試掘調査で検出した法面裾の西向き石垣1から、さらに東へ法面側に10m余り入った位置である。

石垣2は先に見つけた石垣1と同じく西向きで、ほぼ平行しており、検出した長さは9m弱、高さは残存良好なところで1.5m程あり、主に前面が方形の花崗岩の切石で構築されている。

石垣は20個以上の比較的大ぶりな石材で構築されており、さらに敷地外の北・南へも続いて残存する。また石材は花崗岩の切り石が主で、石垣の表面観察からでは、矢で割った痕跡のある石

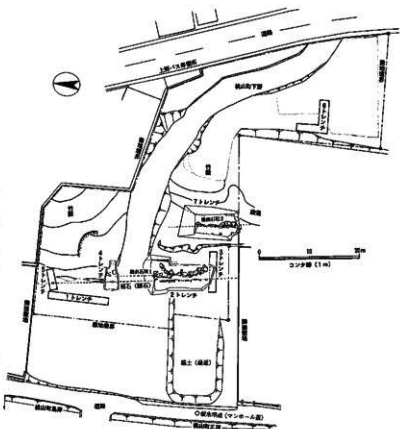


図12 調査地平面図とトレンチ位置図(検出石垣)

や、刻印のある石は確認できなかった。

検出した石垣2は2段のみが残存していたが、南方敷地境界の断面観察から、石垣の傾斜角度は65度前後で、上方にはさらにもう1・2段の石が積まれていた可能性があり、当初は現在残る法面の腰部分程度まで、4～5段の石垣が積まれていたと考えられる。(図14)

石垣の構築方法については、まず据える石垣前面から後ろ(東)へ約2.5mまで、L字形に砂質の地山斜面を削り取って平坦地化し、その上に橙色粘土を敷き、かい詰め石をかませながら長さ1～1.5m、幅1m前後の主に花崗岩の切り石を積み上げて石垣とし、表面の隙間には拳大から人頭大の河原石や割石を詰め込むか、あるいは粘土を詰めているところもあった。

削り取った地山と積んだ石垣の間(裏込め)には、人頭大もある大きな河原石を詰めるか、あるいは粘土混り橙色砂泥で埋めているところがあり、部分的に構築方法が異なる。(図16)

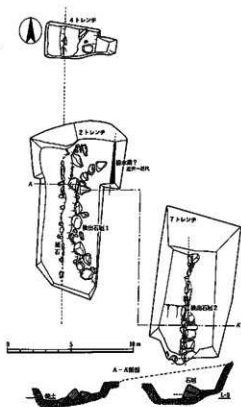


図13 検出遺構(石垣1・2)と断面図

3. 出土遺物

出土遺物は復元して実測図を掲載できるようなものではなく、伏見域存続期の丸・平瓦の破片や、土師器の細片などが西・南の両石垣の前面から出土している。

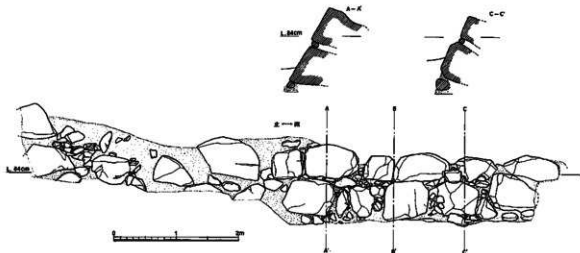


図14 検出石垣(石垣2)の立・断面実測図

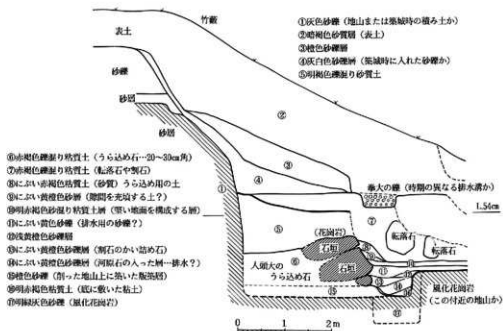


図15 石垣 (石垣2) 南壁土層断面図



写真3 石垣A-A' (北から)



写真4 石垣B-B' (南から)

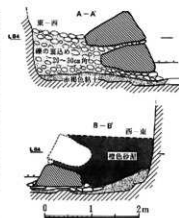


図16 石垣A-A' B-B' 断面略図

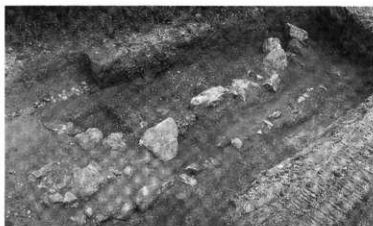


写真5 石垣1の完掘状況 (西北から)



写真6 石垣1 (南から)

4. まとめ

今回検出した石垣2は、発見場所から判断して、法面西下方にあった邸宅敷地の本丸の方向側（東）に存在した法面の腰部分に積まれていた石垣とみられ、石垣1はその前面に存在した庭園に關係する石列とすれば、当然低い西側の邸宅内に属する遺構と考えられる。

調査場所の現住所は桃山町下野で、加藤次郎氏の復元案（『伏見桃山の文化史』昭和28年）によると松平下野守の邸宅に比定され、さらにこの敷地の南西（桃山町三河）は徳川家康邸、北西（桃山町島津）は島津右馬頭邸あるいは渡辺三右衛門邸となっているが、不詳な点も多いため、今回検出した石垣がどの大名屋敷に属するものかについての結論は、今後にゆずりたい。

なお『台徳院殿御実記』元和五年(1619)8月条によると、大阪夏の陣で破壊された石垣の修築に伏見城の石垣が転用され、また寛永元年(1624)頃には、二条城の整備に伴って伏見城の破却がさらに進み、『義演准后日記』同年10月29日の条にある「伏見城跡を見物す、浅ましき体なり」と記されるように、この時期には城としての形態をほとんど失い、地上に見える石垣の大半が撤去されてしまったものと考えられ、石垣の基底部を構成するような深い部分の石垣については撤去を免れ、今日に至るまで地中深くに残ることとなった。

検出した二つの石垣にはあまり高低差もないことから、奥の石垣2が本来の法面の下方腰部分に最低4段以上積まれた石垣、その西で見つかった石垣1は、西方にあった大名屋敷の東側にあった庭園に關係した景石遺構かと考えられるが、今後近辺の調査結果を待って結論付けたい。

(梶川敏夫)



写真7 石垣2完掘状況（北から）

VI 伏見城跡 No. 69

1. 調査の概要

試掘調査を行った伏見区深草内膳町10-1は、京都市立桃山中学校の北東、JR奈良線と京阪電鉄との間にある銀行寮の跡地で、桃山丘陵西側緩斜面の清閑な住宅街に位置している。

当該地は伏見城北方域に当たり、南側にはかつて東西方向に伏見城北外堀（濠）が存在した。

敷地には既存の鉄筋コンクリート4階建ての寮（共同住宅建物）が、私道を挟んで東と西の敷地に2棟建っており、その南側の空地を対象にして試掘調査を平成7年10月23日に実施した。

試掘調査の結果、私有道路西側敷地に設けたトレンチ中央部からは不明土壌1基と、西端のかなり深い場所（地表下約2.5m）に南北方向の溝跡が存在することが判明し、溝底部分から焼炭と桃山期の瓦が若干数出土した。また私道の東側敷地に設けたトレンチからは、南北方向の溝跡とそれに平行する石列を見つけた。

試掘調査で得た情報を検討した結果、敷地内にある解体予定の既存建物部分は、かつての基礎工事の際に既に遺構面が大きく破壊されていると判断されることから、調査区を敷地の東端で検出した南北溝跡と石列遺構部分に絞り、改めて11月10～11日の両日に調査を実施した。

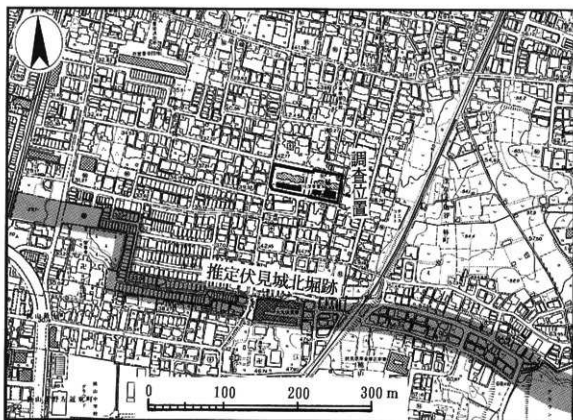


図17 調査位置 (1/5,000) と推定伏見城北外堀跡

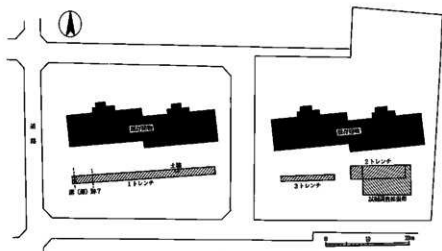


図18 敷地平面並びにトレンチ位置図

2. 遺構

東西に長い敷地は、東側敷地の東半から地形が急に一段高くなっており、既存建物建設の際の造成工事で大きく削り取られているが、建物の南側は旧地形が一部斜面地として残っていた。

最初の試掘調査でこの部分に入れたトレンチから、部分的に南北溝跡及び南北石列を検出したことから、改めて遺構検出部分について面積を84㎡に絞って調査を実施したものである。

遺構は斜面地の深さ0.5～1m余りのところから、溝跡とその西側に平行する石列を2列（東側の石列を石列1・西側を石列2とする）を検出した。

この溝跡は、北側が寮建設時の造成工事で削り取られて何も残っていないが、今回、南北5.5m余りを検出した。なおこの石列1は、北方は造成工事で既に削平されて不明であるが、南方へは敷地外へ続いて存在するものと考えられる。

溝跡は幅広の断面U字形で、北では幅が1.5m、深さ0.8m程あり、南はやや東に振りながら幅約2.5mと広がって浅くなり、深さは0.2m程しか残っていない。

溝跡の埋土には、伏見城存続期に当たる桃山期から江戸初期の瓦片・土師器・陶器などが出土し、溝底近くには炭片も含んでいる。

石列1は、先述の溝跡西側から西へ約3m離れて溝と平行した西向きのもので、南北4.5m余りを検出した。段差は20～30cm程で、やや大きめの石（11個を検出）を平坦にして一列に敷き並べてあり、この石列の上にもう一段の石が積まれていたかどうかは確認できないが、縁石状に並べた一段の石列である可能性が高い。また南北の溝と石列1との間の距離はほぼ10尺（3m）であることから、痕跡は確認できないが、この間に築地か土塁状の構造物があった可能性がある。

またこの石列1よりさらに西側で、もう一段の段差が認められ、元位置を動いていないとみられる3個の石を検出したことから、大半の石は既に消失しているものの、かつもう一段の石列2が存在していたことが判明した。

この石列2は、石列1から南では1.2m、北では1.7mと、北側でやや西に振っており、また残存状況も悪く、同時期の遺構かどうかの判断はできない。

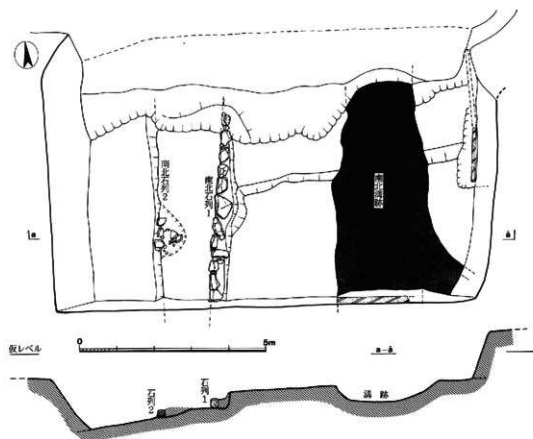


図19 検出遺構平・断面実測図

3. 出土遺物

出土遺物は、平・丸瓦がコンテナ3箱ほど出土したが、いずれも伏見城存続期頃のものである。

図20-1は伏見城跡でよく出土する直径15cm弱の巴紋軒丸瓦で、溝内から出土した。

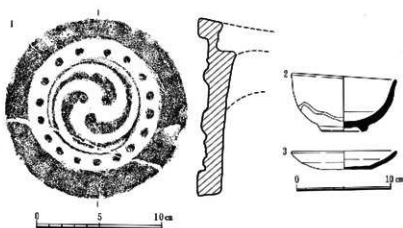


図20 出土遺物実測図

図20-2は、南北方向の溝跡内から出土した椀である。江戸初期に当たる17世紀初頭頃の唐津椀とみられるほぼ完形品で、直径11.3cm、器高5.7cm、赤褐色の素地に底部分を除いて灰釉色のうわ薬が掛けてあり、見込の一部にうわ薬がかかっていない部分がある。

図20-3は、同じく溝跡から出土した直径11cmほどの土師灯明皿で、口縁の一部に煤が付着している。内面底部にこの時期の特徴である凹状圏線をもつものである。

4. まとめ

今回検出した南北溝跡と二列の石列は等高線に沿って南北に存在し、出土遺物からも伏見城に関係した何らかの遺構と考えられるが、先述のとおり溝と石列1との間にはかつて築地か土塁が存在した可能性もある。

西下がりの地形に位置する調査位置は、伏見城の城下か

ら北方の藤ノ森方面へ至る道沿いに当たり、北外堀（濠）に架かる橋を北へ渡ってすぐ東側に存在した邸宅または町屋の跡とみられる。また東側には比較的急な段差が存在することから、この段差が元から存在していたものであれば、西側にある南北道路からこの溝跡（約70m前後）付近までを一つの敷地範囲と考え、最初に西側敷地西端で検出した南北溝が、かつて西側道路（東側）に沿って存在した南北方向の堀（溝）跡とも考えられる。今後この付近で行われる調査成果に注目し、遺構の解明に繋げていく必要があるだろう。

(梶川敏夫)

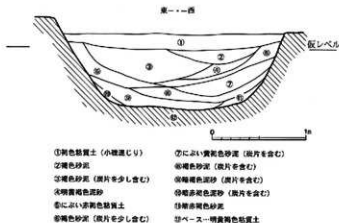


図21 南北溝跡断面土層図



写真8 遺構完掘状況（北上から）

VII 中久世遺跡 No 81

1. 調査の概要

調査地は南区久世殿城町123番地に位置する畑地である。この土地に宅地開発の計画が生じたため、平成7年9月20日に試掘調査を行った。その結果、耕作土直下で弥生時代の東西溝や多数の柱穴を発見し、遺跡が非常に浅いところに良好に残存していることを確認した。その後、埋蔵文化財調査センターと関係者として協議し、開発に伴う住宅建設は敷地内を盛土するため遺跡を破壊しないことを確認したが、道路予定地については調査の必要が生じた。このため、同年10月25日から31日まで再調査を実施した。

2. 遺構・遺物

当地の標高は約16.7mで遺跡の成立する地盤

面は、耕作土直下（地表下10数cm）の明黄褐色粘質土である。しかし、耕作土にも遺物が多数含まれていることから、本来遺跡は現地表面と同じ標高で存在していたと考えられる。

検出した主な遺構には、弥生時代の土壇状遺構（土壇1・溝2）、奈良時代の溝（溝3・4）・建物跡（建物5）、中世の井戸（井戸7）などがある。この他にも時期の特定や建物としてまとめることが出来なかった土壇・溝・柱穴などの遺構を多数検出している。

土壇1 トレンチの北西隅で検出した土壇状遺構である。長軸の長さ3.2m以上、短軸の長さ1.5m、深さ0.44mを測る。断面形は逆台形を呈し、埋土は上下3層に分層でき、上から褐灰色砂泥・黒褐色砂泥・褐灰色砂泥がレンズ状の堆積を呈している。中層からは弥生時代中期の壺が出土した。

溝2 トレンチの中央付近で約6mにわたって検出した東西方向の溝

（図24では破線表示）である。溝は東がやや北に振れる方向をもち、東に向かってやや深くなっている。溝の幅は西端では0.9mあるが東へ行

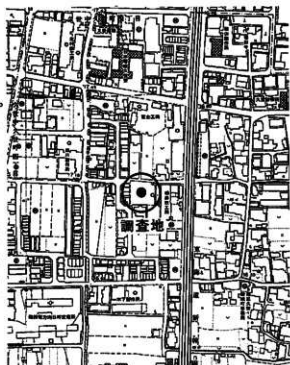


図22 調査位置図 (1/5,000)

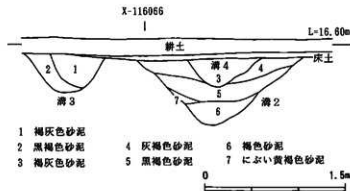


図23 溝跡土層図 (1/40)

くほど広がり東端では1.75mになる。断面形はV字形を呈し、深さは約0.7mを測る。埋土は上下3層に分層でき、埋土内からは弥生時代中期の甕・壺や石製品等が少量出土した。

溝底部からは、横向き状態で壺1個がほぼ完形で出土した。

(写真10・図25) 壺は口径28cm、口縁端部の外面は刻目文で飾る。胴部から頸部にかけては櫛描直線文を11箇所、その下に櫛描波状文を1箇所に施す。

溝3 溝2の北側で検出した東西方向の溝である。溝の方向は、東がやや北に振れる。

幅は約0.9m、深さは0.4m、断面形は逆台形状を呈する。埋土は2層に分層でき、北から南へ埋まったことが観察出来る。

埋土内からは、弥生時代の甕・壺や奈良時代の須恵器(杯・壺・甕)などが出土した。

溝4 溝3の南、溝2を切り込んで掘られた東西溝である。溝の幅は0.8m、深さは0.3m、断面形はU字形を呈する。埋土内からは、飛鳥から奈良時代にかけての土師器・須恵器などが出土した。

建物5 トレンチの中央西寄りで見出した掘立柱建物である。南北2間(2.1m・2.9m)、東西1間(1.8m)以上の規模で、南北棟の切妻建物が推定される。柱穴は方形の掘形を持ち、一辺の大きさ

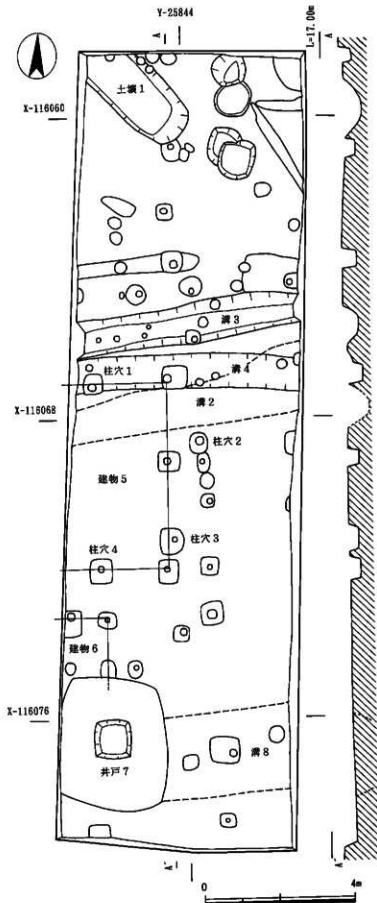


図24 遺構実測図 (1/100)

は0.4~0.7m、柱当りは直径0.15~0.2m、深さは0.2~0.45mある。柱当たりの下部に根石をかますものがある。

遺物には奈良時代後期と考えられる須恵器の杯が柱穴1から、土師器の皿が柱穴4から出土した。

建物6 建物5の南で一部を検出した掘立柱建物である。今回の調査では、東西1間(1.0m)、南北1間(1.2m)を確認したのみある。

井戸7 建物6を切って掘り込まれた井戸で、1.5mまで掘り下げたが井戸枠などは発見出来なかった。井戸の掘形は方形を呈し、一辺約3.5mを測り、筒部は一辺1.4m程度ある。出土遺物には時代のばらつきが認められ、新しい時代の遺物から勘察して鎌倉時代前後の井戸と推定される。

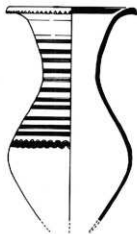


図25 土器実測図 (1/8)

溝8 遺構検出を主体とし、断面観察のみを行った。東西方向の溝で幅は約2.35m、深さは0.95mを測る。遺物は細片のものが若干出土し、時代については不明である。

その他 建物としてはまともななかったが、柱穴2・3からそれぞれ奈良時代後期の須恵器の杯・杯蓋が出土した。

3. まとめ

調査地の西側に隣接する住宅地は、昭和55年に勸京都市埋蔵文化財研究所が発掘調査し、方形周溝墓2基・平安時代の掘立柱建物・井戸などを検出している。当地においても遺跡の密度が高いことが明らかとなり、さらに周辺の畑地にも遺物が散布していることから、弥生時代においては墓域、その後の時代においては集落の中心地であったことが判明した。

(長谷川行季)



写真9 調査地全景(北から)



写真10 溝2土器出土状況(西から)

VIII 尼吹ノ谷窯跡

1. 発見の経緯

平成7年6月18日に、岩倉小学校6年生の上岡有智子さんが岩倉川に西方から流れ込む尼吹ノ谷の下流で緑釉陶器の素地を採取した。上岡さんは京都市考古資料館にその資料を持参され、採集地等の情報を報告された。京都市埋蔵文化財調査センターでは、同年7月11日と7月31日に現地調査を試み、谷の上流域に緑釉陶器の素地焼成窯に伴うと考えられる灰原を確認した。この窯跡は新発見の窯跡であり、ここにその概要を報告する。

尼吹ノ谷は、岩倉盆地西端を南北に流れる岩倉川に西方から流れ込み、京都市左京区岩倉上蔵町に所在する。岩倉川と合流する地点に水量調節柵があり、その付近が上岡さんの採集地点である。この地点から上流沿いに約550mにわたって遺物が散在しており、その分布の最終地点に灰原が残存している。この灰原は、谷筋南側斜面に長さ約10mの範囲で認められるものの、窯本体の位置、方向等は不明である。灰原のある谷筋の両側は急斜面であり、灰原の攪乱部分の観察では、灰原は南側に約60cmしか延びず、また、谷の下流に向けて斜方向に堆積している状況から、窯本体及び灰原が現在の谷筋と平行して存在していた場合は、谷川の流路の変化と永年の雨水による土砂流失によって遺構の大半が押し流された可能性も考えられる。



図26 窯跡位置図 (1/20,000)



写真11 窯跡現状 (西から)

の観察では、灰原は南側に約60cmしか延びず、また、谷の下流に向けて斜方向に堆積している状況から、窯本体及び灰原が現在の谷筋と平行して存在していた場合は、谷川の流路の変化と永年の雨水による土砂流失によって遺構の大半が押し流された可能性も考えられる。

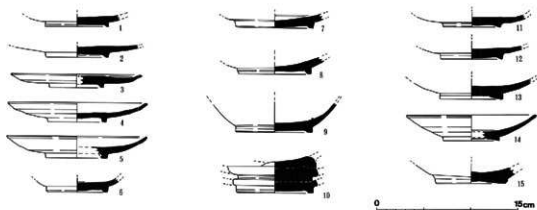


図27 遺物実測図 (1/4)

2. 採集遺物 (図27)

採集した遺物は緑釉陶器とその素地、須恵器の計55点であり、主体は緑釉陶器の素地が占める。器種は碗、皿、壺、鉢、甕などがあり、緑釉陶器及びその素地は碗と皿に限られるようである。

主体を占める緑釉陶器の素地は高台が削り出しによって作られており、全体に外底面の削りが浅いため、底部の器壁は8mmを越えるものさえ認められる。高台の形態は、断面方形の輪高台(1~10)、扁平で内面を薄く斜方向に削り出す円盤状高台(11・12)、蛇の目高台(13~15)の大きく3種類に分類される。量的には26点(図27-10は3個体)の高台片の73.1%を輪高台が占め、円盤状高台は11.5%、蛇の目高台は15.4%に過ぎない。

図化した1~5は輪高台の皿で、全体を窺うことが出来る3の口縁部は鋭く屈折後反し、屈折部内面に太い沈線が巡る。4は内底面に沈線が巡り、口縁部の屈曲は3ほど極端ではない。5は内湾気味の体部から短い口縁部が内上方に屈曲するもので、屈折部内側に浅い沈線が巡る。6~10は輪高台をもつ碗であり、いずれの高台も太くしっかりしたものである。7は輪高台の内側と内底面に沈線が巡る。9は内面に他個体の熔着が認められ、10は直接重ね焼きを示す良好な資料である。この窯跡の輪高台の多くは削り出しの後、高台内側から接地面にかけてナデ調整が施されている。また、高台径は皿で平均6.5cm(5.8~6.8cm)、小型の碗を除くと碗では平均8.3cm(7.7~9.0cm)を示す。円盤状高台の11には直接重ね焼き痕を示す熔着が認められ、蛇の目高台をもつ皿14は緩やかに内湾した体部に丸く肥厚した口唇部をもつ。図化していないが、碗の口縁部は全て短く外方に屈曲するのがこの窯の製品の特徴である。

3. まとめ

この窯跡表採資料の年代は、9世紀末頃を中心とした時期(平安京II期中)に属すると考えられ、洛北地域では、9世紀後半の妙満寺境内窯と10世紀の前半の栗栖野3号窯を繋ぐ貴重な資料になるとみられる。また、当該遺跡からは後日、陰刻花文の陶片も採集されている。

(馬瀬智光)

謝辞 年代観、素地の調整に関しては、平尾政幸・小森俊寛両氏の御教示を得た。

表2 試掘調査一覧表

平成6年度 1～3月期

平安宮

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	番号
基原内 松原南	上・七本松通下立売上る七番町351-49	1/20	G.L-0.88mで近世の溝・土壇を発見する。	1
	下・千本通下立売下る小山町908-14	2/27	G.L-0.26mで平安時代の盛地層、G.L-0.44mで地山の砂礫層。	2

平安京右京

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	番号
三条三坊十三町 四条三坊十三町	中・西ノ京桑原町4	3/24	G.L-1.99m以下、遺地伏槽。	3
	右・西院小米町8-1他	1/25・26	G.L-1.25mで平安時代前期の竪立柱建物を見える。本文11ページ。	4
五条一坊八町 六条一坊十五町	中・壬生高麗町20-12他	1/13	遺構・遺物ともに発見出来ず。	5
	下・中堂寺庄ノ内町51他	2/3	G.L-1.28mで平安時代の遺物包含層、G.L-1.35mで地山の砂礫層。	6
六条三坊四町 七条二坊十二町	右・西院清崎町21	3/6	G.L-0.76mで平安時代の土壇3基を発見する。	7
	下・西大陰通七条上る西七条北衣田町38他	3/8	G.L-0.3mで平安時代の遺物包含層を発見する。	8
八条一坊十六町 九条大路	下・西七条南東野町6	2/6	G.L-0.3mで推定七条大路南側溝を発見する。	9
	南・吉祥院中島町16他	3/27	G.L-0.92m以下、河川氾濫堆積。	10

太秦地区

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	番号
古墳群 常盤東ノ町古墳群	右・常盤柏ノ木町1他	1/9	遺構・遺物ともに発見出来ず。	11
	右・太秦一ノ井町39	2/8	遺構は発見出来ず。	12

洛北地区

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	番号
植物園北遺跡	左・下鴨橋筋町5-6他	3/15	G.L-0.74mで中世の東西方向(深さ1m以上)の溝状遺構を検出する。	13

洛東地区

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	番号
中區遺跡	山・上花山旭山町8-1他	2/15・16	古墳は発見出来ず。	14
	山・東野舞台町96-1	2/20	G.L-1.22mで古墳時代の土壇?を発見する。	15

伏見・醍醐地区

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	番号
伏見城跡	伏・桃山町鶴島35-2他	2/13	G.L-0.78mで桃山時代の瓦地覆層を確認する。	16

鳥羽地区

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	番号
鳥羽離宮跡	伏・竹田内畑町8他	1/30	G.L-0.8m以下、沼伏地。	17
	伏・竹田田中殿町26-3他	3/1	G.L-1.0mで平安時代後期の遺物包含層、G.L-1.45mで平安時代後期の盛地層を発見する。	18
鳥羽離宮跡	伏・竹田淨菩提院町32	3/10	G.L-1.3mで東院の礎石を確認する。鳥羽117次調査地点。	19
鳥羽離宮跡	伏・竹田淨菩提院町105	3/20	G.L-1.39m以下、灰色粘質土の堆積。	20
鳥羽離宮跡	伏・中島宮ノ前町29-10	3/22	G.L-0.4m以下、平安時代の遺物を含む河川氾濫堆積。	21

南・桂地区

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	番号
上久世遺跡	南・久世上久世町362-1他	3/13	G.L-1.35mで沼伏地。	22

長岡地区

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	番号
長岡京跡	南・久世東土川町53-1他	3/17	G.L-0.75mで地山の砂礫層、砂礫層上面で古墳時代?の東西溝(幅4.6m・深さ0.75m)を検出する。	23

平成7年度 4～12月期

平安宮

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	番号
赤園・殿東第跡 大蔵省 大宿衛・東条第跡	上・松原町通一条下下鏡石町211-3	11/22	G L-1.2mまで掘土。 G L-1.45m以下、瓦遺物等。遺構・遺物検出できず。 G L-0.6mで平安時代の土壌2基を検出する。本文7ページ。	24
	上・仁和寺街道大新町西入四番町122-1地	5/10		25
	上・中立売通鳳門東入多門町440-6	12/8		26
職御曹司・東条第跡 職御曹司・東条第跡 中和院 豊楽院 朝堂院	上・智恵光院通出水上天祥丸町191	12/20	G L-1.7mで近世の落ち込み状遺構を検出する。 G L-0.85mで桃山時代の整地層。 G L-0.6mで平安時代の整地層を確認。大半は掘削。 地表面下で平安時代の瓦を多量に含む整地層を検出。 遺構は検出できず。	27
	上・出水通智恵光院東入金馬場町169	7/31		28
	上・下立光通千本東入田中町422	10/19		29
	中・聚楽園中町43-11	8/10		30
	上・千本通竹屋町上主税町1209	6/5		31

平安京左京

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	番号
二条二坊十一町	中・堀川邊竹屋町下る8丁目532地	9/18・19	G L-1.0mで鎌倉から近世に至る井戸・土壌・柱穴・溝などを多数検出。発掘調査を指導する。	32
三条二坊十五町	中・小川通御池上る下古越町384-1地	12/4	G L-1.2mで近世の南北溝1条を検出する。	33
三条四坊十二町	中・柳馬場通三条上る柏屋町90	7/26	G L-2.83mで室町時代から桃山時代にかけての土壌・横石などを発見する。発掘調査を指導する。	34
四条三坊七町	中・室町通六角南入る観山町523地	11/13・14	1 T : G L-1.6m以下で桃山時代の整地層。2 T : G L-1.44mで室町時代の土壌・落ち込み状遺構を検出。	35
四条四坊十三町	中・寺町跡小路下る東大文字町301	12/13	G L-1.3mで平安時代末から鎌倉時代の南北溝・柱穴・土壌状遺構を認める。南北溝は、推定東京屋敷大路西側溝の可能性あり。	36
八条三坊十四町	下・東園院通七条下る東堀小路町676-13	4/5	G L-1.35mで中世の遺物包含層。G L-1.7mで中世の遺構面を認める。発掘調査を指導する。	37
九条三坊七町	南・東九条室町1-2地	4/17	G L-1.2mで平安時代中期の井戸の底部を検出する。	38
九条三坊十三町	南・東九条鳥丸町1-1	12/6	G L-0.5～-0.7mで平安時代の土壌1基・柱穴2を検出する。	39
九条四坊一町	南・東九条東山王町13	10/11	G L-1.4～-1.6mで鴨川の氾濫堆積。	40

平安京右京

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	番号
一条二坊四町	中・西ノ京南大炊御門町7	8/21	G L-0.3mで平安時代の竪立柱建物跡・溝などを検出。発掘調査を指導する。	41
一条三坊十二町	中・西ノ京馬代町14-2地	9/8	G L-0.5mで推定竪立柱建物跡・柱穴などを検出。発掘調査を指導する。	42
一条四坊一町	右・花園堀ノ毛町10-1	8/7	G L-0.72m以下、宇多川の氾濫堆積。	43
四条一坊六町	中・壬生花井町3	6/21	1 T : G L-1.2mで時期不明の南北溝・井戸状遺構を検出する。2 T : G L-1.2m以下、近世の陥没遺構。	44
四条二坊十二町	右・西院東岸和院町28-1	8/9	G L-0.5mで平安時代の土壌2基。トレンチの大半は河川の氾濫堆積。	45
七条四坊八町	右・西京極楽寺町68	8/28	G L-0.3m以下、砂礫層。	46
七条四坊八町	右・西京極楽寺町71-1地	11/27	G L-1.0mで砂礫層。	47
八条四坊二町	右・西京極楽寺町71-13地	4/20・21	G L-1.2mで徳川の氾濫堆積。	48
史跡西寺跡	南・唐橋西寺町63	11/17	地表下数mで焼け瓦・土器類を含む整地層。その下層で小房子土壌を発見した。本文13ページ。	49

太秦地区

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	番号
常盤東ノ町古墳群	右・常盤東ノ町21-9地	4/24	G L-0.79mで時期不明の土壌2基・東西溝1条を検出する。	50
仁和寺院家跡 広隆寺境内内・ 常盤仲之町遺跡	右・常盤御池町21-18地	7/12	G L-1.0mで黒褐色泥土の掘地又は陥没遺構。 G L-0.75～-1.1mで柱穴・住居状遺構を検出。発掘調査を指導する。	51
	右・太秦東ヶ崎町10	9/13・14		52
広沢古墳群	右・總持広沢池下町 広沢児童公園	7/10	古墳所在地であるが、全く発見出来なかった。	53

洛北地区

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	番号
元福河川宮跡	左・岩倉橋枝町730-6	8/2	G L-1.45mで平安後期瓦葺の灰層を確認する。	54
植物園北遺跡	北・上賀茂大町28地	12/18	G L-1.1mで近世の整地層。G L-1.5mで湿地状堆積。	55
史跡予定地 大徳寺境内	北・紫野大徳寺町 紫野高校	12/25	表土下で近世～近代の整地層・土壌1基を検出。	56

北白川地区

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	番号
京都大学 北部構内遺跡	左・北白川東馬町27	5/26	G L-0.3m以下、奈良から室町時代の遺物を含む層。G L-1.05mで灰遺物の細砂層。	57
白川街区跡	左・聖徳院山王町11	7/7	G L-1.4mの黒褐色粘質土上面で鎌倉時代の土壌1基を検出する。	58
法勝寺跡	左・岡崎法勝寺町29	9/27	G L-0.7mで平安中期の土壌1基・古墳時代後期の柱穴3基を検出。	59
草勝寺跡	左・岡崎西天王町61他	11/1	G L-1.4mで平安時代の整地層を認める。	60

洛東地区

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	番号
法性寺跡	東・本町十五丁目749	11/29	G L-0.9mで室町時代の東西方向の溝を認める。	61
中臣遺跡	山・黒尾野行越町12-3	9/6	G L-0.75mで黄褐色粘質土。遺構・遺物共に検出できず。	62
中臣遺跡	山・西野山中臣町74-3他	11/21	G L-0.5mで不定形な土壌2基を発見する。	63

伏見・醍醐地区

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	番号
炬ノ杜遺跡	伏・醍醐柏森町31-3	5/30・31 8/30・31 11/8	G L-0.3mで南北方向の堤状遺構(幅4.2~5.5m・高さ0.4~0.6m)を発見する。 G L-1.2mまで盛土のみ。	64
史跡醍醐寺境内	伏・醍醐東大路町35-1	11/8	墳丘部で埋蔵物を検出する。発掘調査を指導する。	65
伏見城跡	伏・桃山町遠山24-1他	6/26~28	G L-2.4mで時期不明の土壌1基を発見する。	66
伏見城跡	伏・桃山井伊掃部町16	8/23	南北方向の石垣を20m以上にわたって発見する。本文15ページ。	67
伏見城跡	伏・桃山下町29-1他	9/25・26 11/27	桃山時代の南北溝・南北石列を発見する。本文20ページ。	68
伏見城跡	伏・深草大亀谷内藤町10-1	10/23・ 11/10・11	桃山時代の南北溝・南北石列を発見する。本文20ページ。	69
伏見城跡	伏・京町3丁目190-1他	11/15	1 T: 表土直下(G L-0.3m)で桃山時代の東西溝1。2 T: G L-1.0mで江戸時代の横土壌1・南北溝1・時期不明の柱穴2を検出した。	70

鳥羽地区

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	番号
鳥羽離宮跡	伏・竹田小屋ノ内町32-4他	9/11	G L-0.9mで鳥羽離宮跡の東西方向の溝状遺構(幅4m以上高さ0.9m)を検出。	71
鳥羽離宮跡	伏・竹田淨菩提院町73-2他	6/12	G L-0.75mで石積み地蔵跡を検出する。設計変更を指導する。	72
鳥羽離宮跡	伏・竹田内畑町288-2	10/16	G L-0.6mで砂層の落ち込みを検出する。	73
鳥羽離宮跡	伏・竹田内畑町68-2	5/24	G L-0.3~1mで平安時代の遺物を含む沈積層。	74
鳥羽離宮跡	伏・竹田内畑町94他	10/18	G L-0.8mで灰色泥土の埋地状遺構。	75
鳥羽離宮跡	伏・竹田藤ノ川町2-1	6/7	粘土・灰土の下層は灰色泥土の砂層層の堆積のみ。	76
鳥羽離宮跡	伏・中島宮ノ後町14-4	10/13	遺構・遺物ともに発見出来ず。	77
鳥羽離宮跡	伏・中島端町35	6/14	G L-0.15mで平安時代の遺物を含む整地層。G L-1.36mで砂層。	78

南・桂地区

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	番号
権原南寺	西・権原内堀外町21	5/8	G L-0.55mで時期不明の東西溝2条を検出する。	79
福西古墳群	西・大枝中山町3-112他	7/17	地表下3.7mで旧耕作土を検出。	80
中久世遺跡	南・久世城域町123	9/20 10/25~31	粘土直下で弥生時代の溝・奈良時代7の溝・掘立柱建物・柱穴多数を検出する。本文24ページ。	81

長岡地区

遺跡名	所在地	調査日	調査概要	番号
長岡京跡	南・久世築山町266-2他	7/24	G L-1.28mで黄褐色粘質土。遺構・遺物発見できず。	82
長岡京跡	伏・久我西出町11-14-15-16	5/22	G L-0.3~1.0mで西羽東藤川の氾濫堆積。	83
長岡京跡	伏・羽東跡古川町297他	10/3	粘土土下で旧細川の氾濫堆積。	84

報告書抄録

ふりがな	きょうとしなにいせきくつちょうさがいほう							
書名	京都市内遺跡試掘調査概報 平成7年度							
副書名								
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	梶川敏夫・長谷川行孝・馬瀬智光							
編集機関	京都市埋蔵文化財調査センター							
所在地	〒602 京都市上京区今山川大宮東入元伊佐町265-1							
発行機関	京都市文化市民局							
所在地	〒604 京都市中京区寺町通御池上の上本能寺前町488							
発行年月日	西暦1996年3月31日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査理由
		市町村	遺跡番号					
平安宮跡 大権堂	京都市上京区 今川中 立英道 東入多門町	26100		35度 1分 18秒	135度 44分 59秒	1995.12.08	15	事務所建設
平安京跡 右京西条三坊	京都市右京区 西院小倉町	26100		35度 0分 4秒	135度 43分 41秒	1995.01.25・ 01.26	121	マンション
史跡 西寺跡	京都市南区 唐橋西寺町	26100		34度 58分 33秒	135度 44分 20秒	1995.11.17	18	住宅建設
伏見城跡	京都市伏見区 桃山町下野	26100		34度 56分 5秒	135度 46分 36秒	1995.09.25・ 09.26・11.10	210	宅地造成
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
平安宮跡 大権堂	宮殿跡	平安時代	土壇	土師器・須恵器・緑釉陶器・ 黒色土器・研平瓦				
平安京跡 右京西条三坊	都城跡	平安時代	掘立柱建物	土師器・須恵器・瓦類				
史跡 西寺跡	寺院跡	平安時代	推定東小字跡基礎	土師器・須恵器・灰釉陶器・ 緑釉陶器・瓦類		設計変更により保存措置を図る。		
伏見城跡	城跡	桃山時代	石垣	土師器・瓦類				

ふりがな	きょうとしなにいせきしくつちょうさがいほう							
書名	京都市内遺跡試掘調査概報 平成7年度							
期書名								
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編者名	梶川敏夫・長谷川行季・馬淵智光							
編集機関	京都市埋蔵文化財調査センター							
所在地	〒602 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265-1							
発行機関	京都市文化市民局							
所在地	〒604 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488							
発行年月日	西暦1996年3月31日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
伏見城跡	京都市伏見区 深草大黒谷内膳町	26100		34度 56分 32秒	135度 46分 31秒	1995.10.23・ 11.10	95	マンション建設
中久世遺跡	京都市南区 久世錦城町	26100		34度 57分 12秒	135度 43分 1秒	1995.09.20・ 10.25～10.31	120	宅地造成
尾吹ノ谷窯跡	京都市左京区 岩倉上蔵町	26100		35度 4分 45秒	135度 46分 52秒			遺跡発見
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
伏見城跡	城跡	桃山時代	石列・東西溝	土師器・陶磁器・軒丸瓦				
中久世遺跡	集落跡	弥生～古墳	東西溝・掘立柱建物・土墳	弥生土器・土師器・須恵器				
尾吹ノ谷窯跡	窯跡	平安時代	灰原	須恵器・緑釉陶器の窯地		新発見遺跡		

圖 版

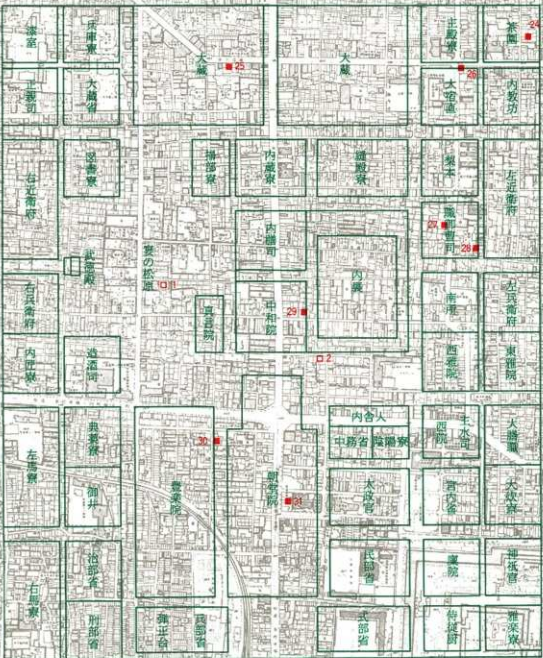
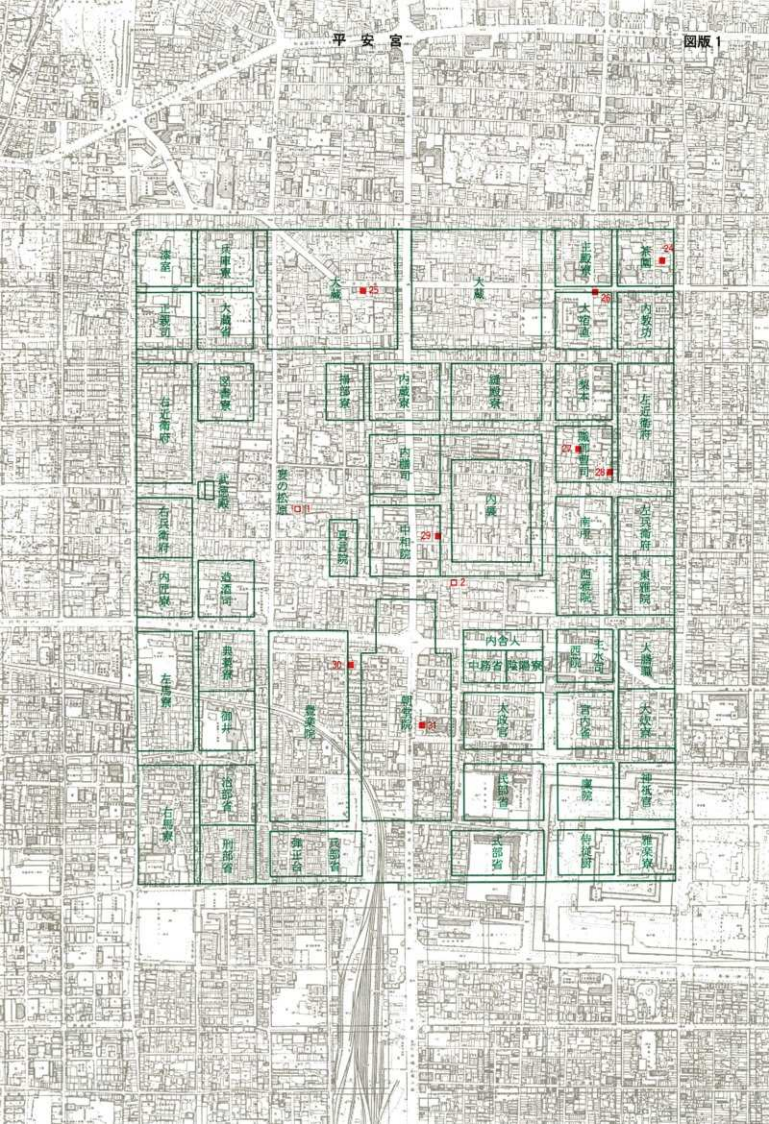
凡 例

平成7年試掘調査地点

□ 1月～3月

■ 4月～12月

----- 遺跡範囲



一条大路

正親町小路

土御門大路

橘司小路

近衛大路

勘解由小路

中御門大路

春日小路

大炊御門大路

冷泉小路

二条大路

神小路

三条坊門小路

神小路

三条大路

朱雀大路

坊城小路

壬生大路

權橋小路

大宮大路

播磨小路

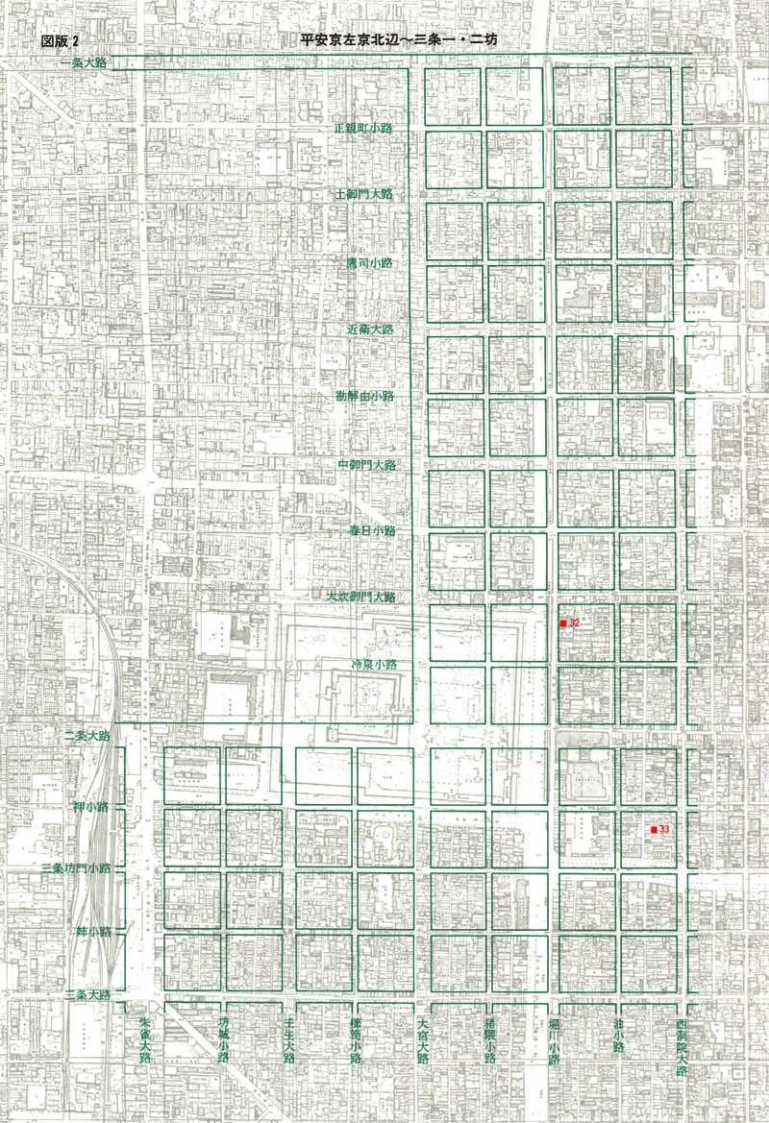
堀川小路

池小路

西新院大路

■ 32

■ 33



桑大路

正親町小路

土御門大路

廣司小路

近衛大路

勘解由小路

中御門大路

壽白小路

大炊御門大路

冷泉小路

三条大路

押小路

三条坊門小路

柿小路

三条大路

西御教大路

町屋小路

笠町小路

烏丸小路

東御院大路

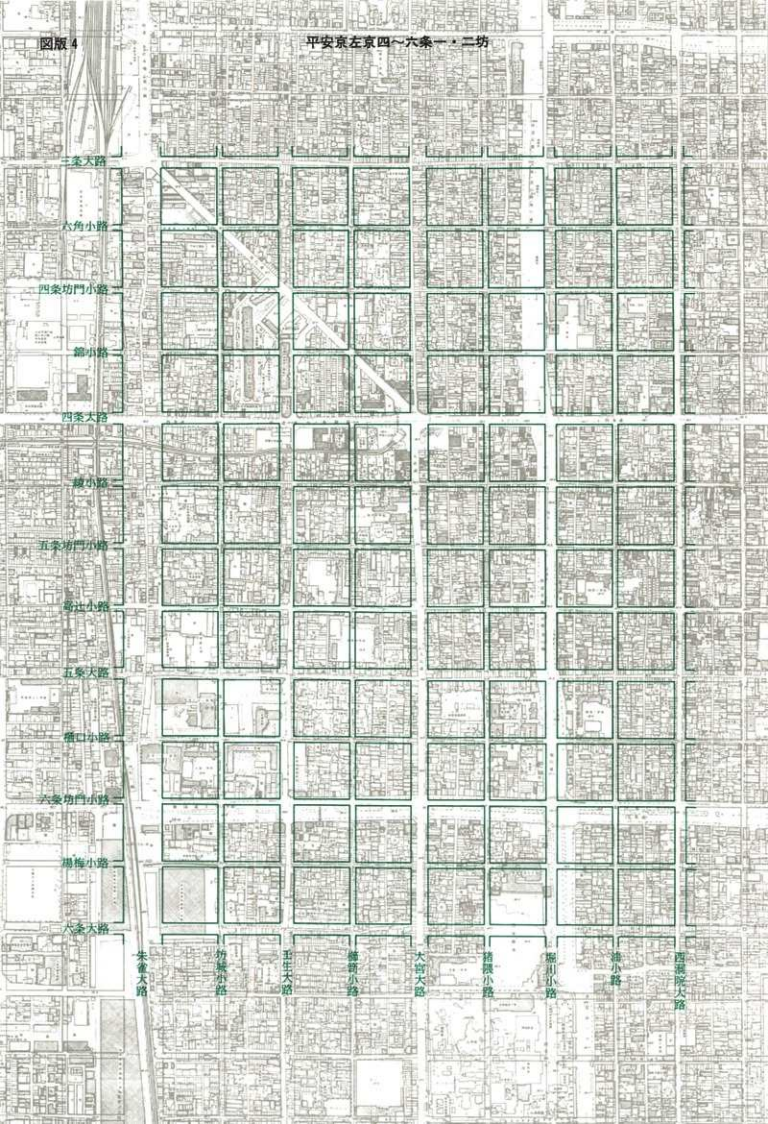
萬倉小路

万葉小路

富小路

東宮條大路

■ 34



三条大路

六角小路

四条坊門小路

錦小路

四条大路

錦小路

五条坊門小路

錦江小路

五条大路

横口小路

六条坊門小路

馬梅小路

六条大路

朱雀大路

竹屋小路

壬生大路

藤原小路

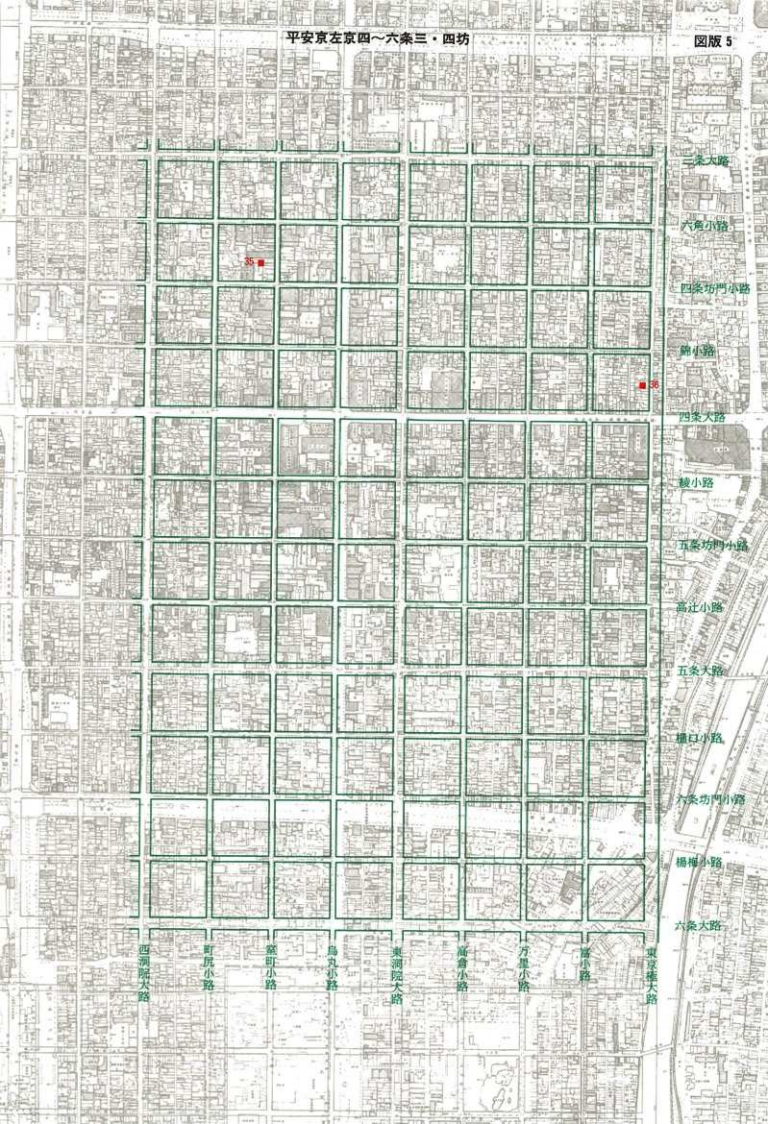
大倉大路

箱根小路

堀川小路

池小路

西渡院大路



一条大路

六角小路

四条坊門小路

錦小路

四条大路

綾小路

五条坊門小路

高辻小路

五条大路

横白小路

六条坊門小路

楊梅小路

六条大路

西洞院大路

町尻小路

室町小路

烏丸小路

東洞院大路

高倉小路

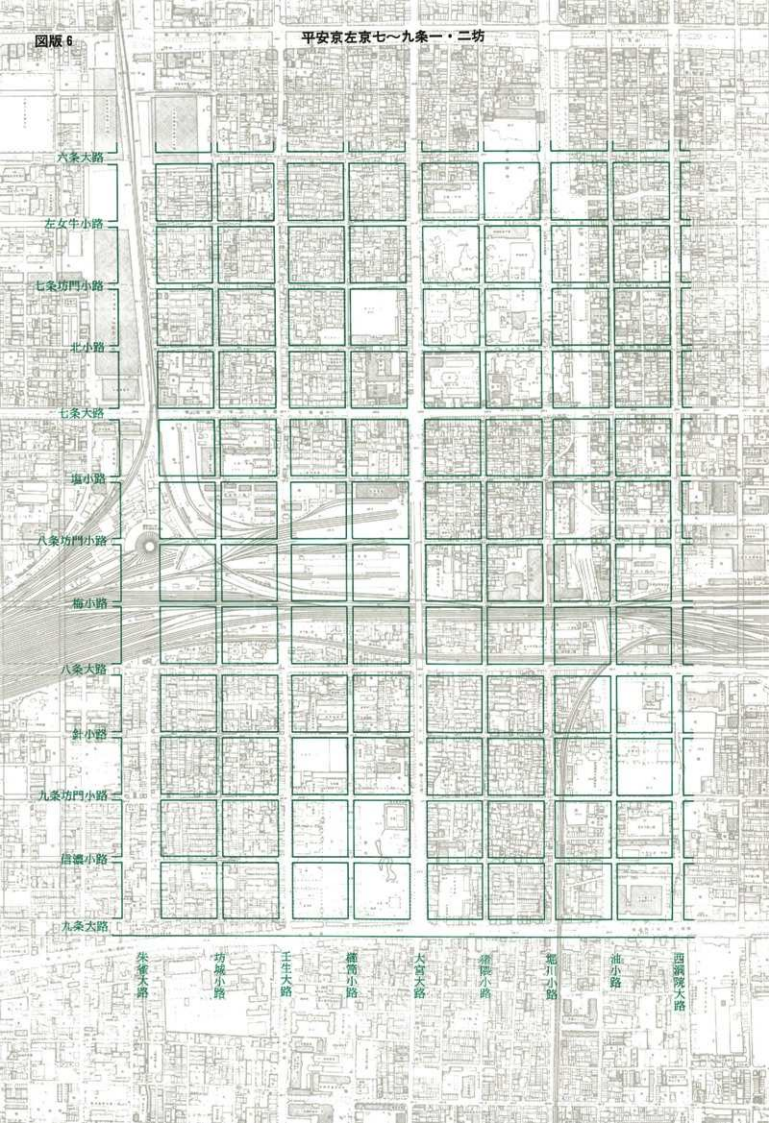
万葉小路

渡小路

東宮権大路

35

36



六条大路

左女牛小路

七条坊門小路

北小路

七条大路

塩小路

八条坊門小路

梅小路

八条大路

針小路

九条坊門小路

唐瀨小路

九条大路

朱雀大路

坊城小路

壬生大路

權高小路

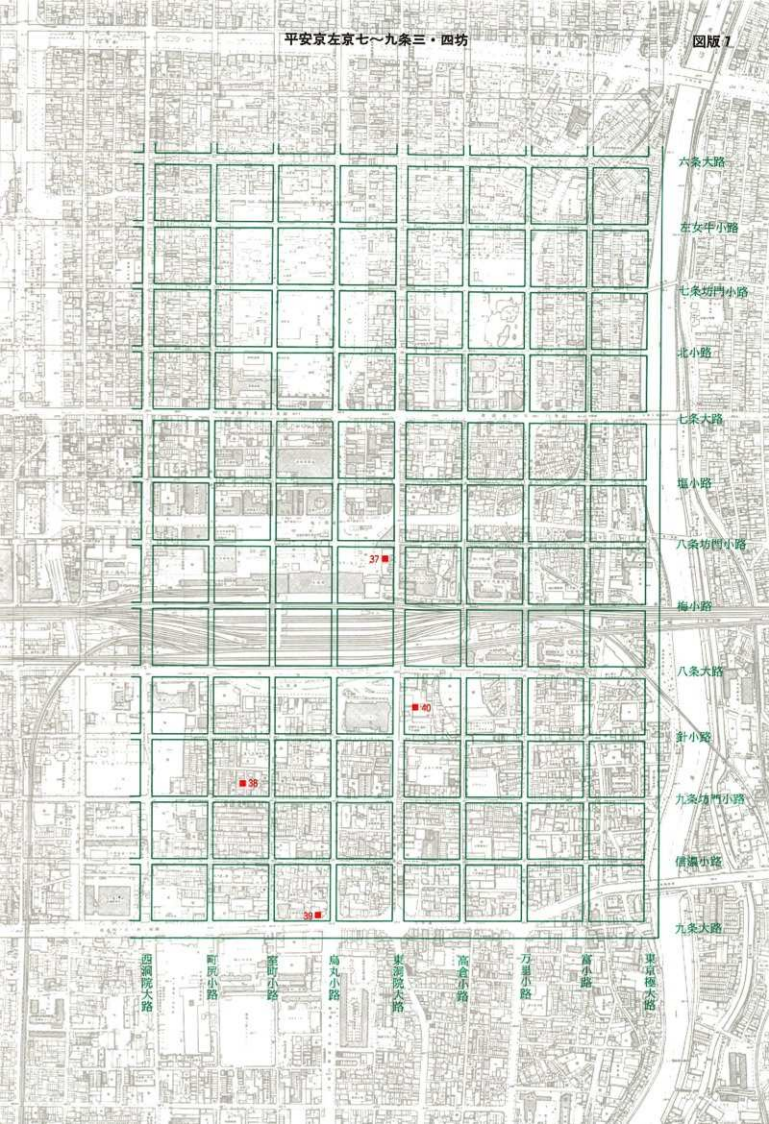
大宮大路

鐘院小路

堀川小路

油小路

西洞院大路



六条大路

左女平小路

七条坊門小路

北小路

七条大路

堀小路

八条坊門小路

堀小路

八条大路

針小路

九条坊門小路

信濃小路

九条大路

西洞院大路

町尻小路

室町小路

烏丸小路

東洞院大路

高倉小路

万里小路

高小路

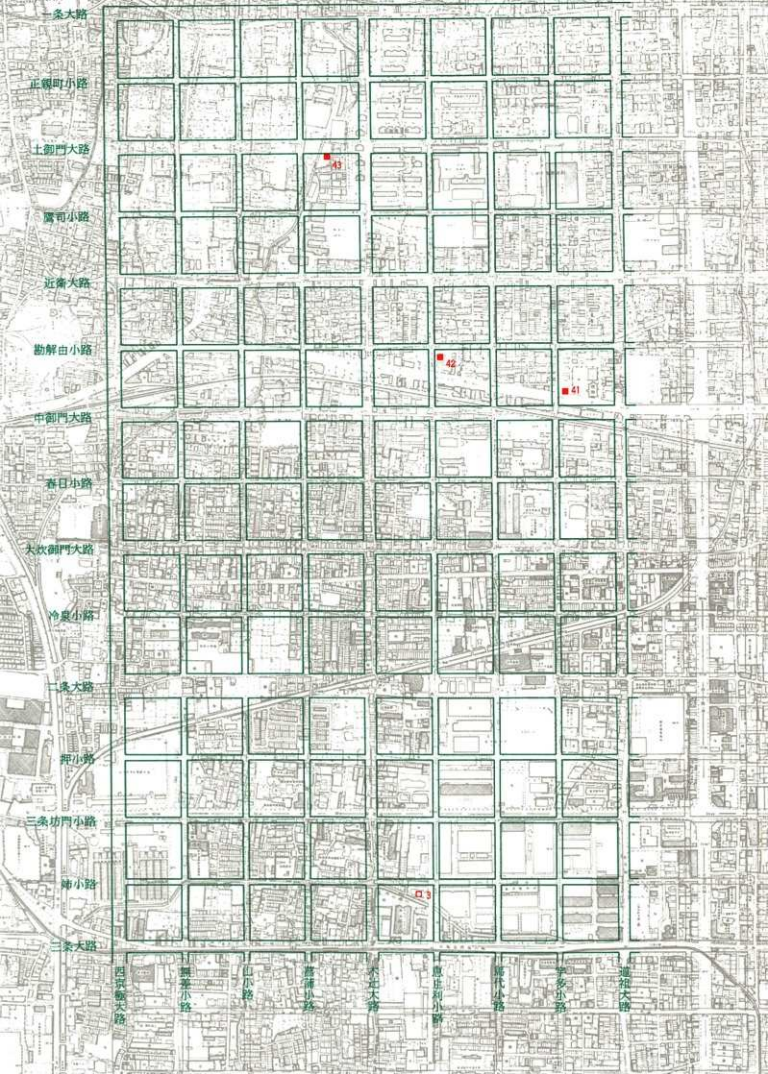
車京極大路

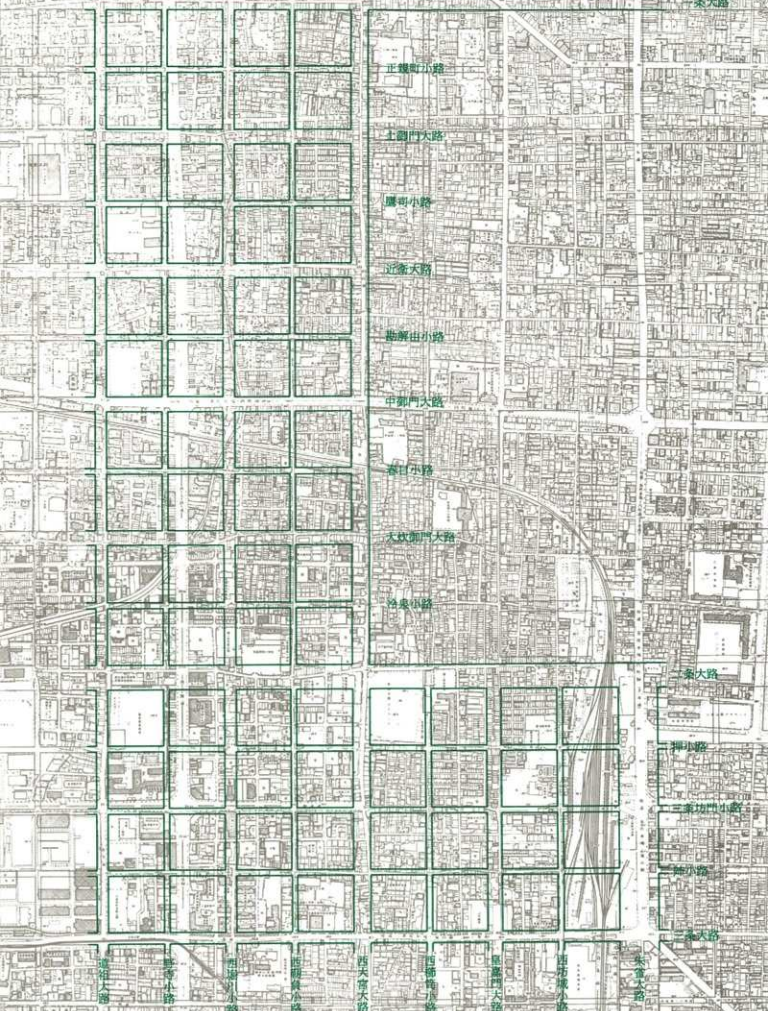
■ 36

■ 37

■ 40

■ 39





正親町小路

土御門大路

鷹司小路

近衛大路

嵯峨由小路

中御門大路

春日小路

大炊御門大路

洛東橋路

三条大路

押小路

三条坊門小路

一坊小路

二条大路

東坊小路

西坊小路

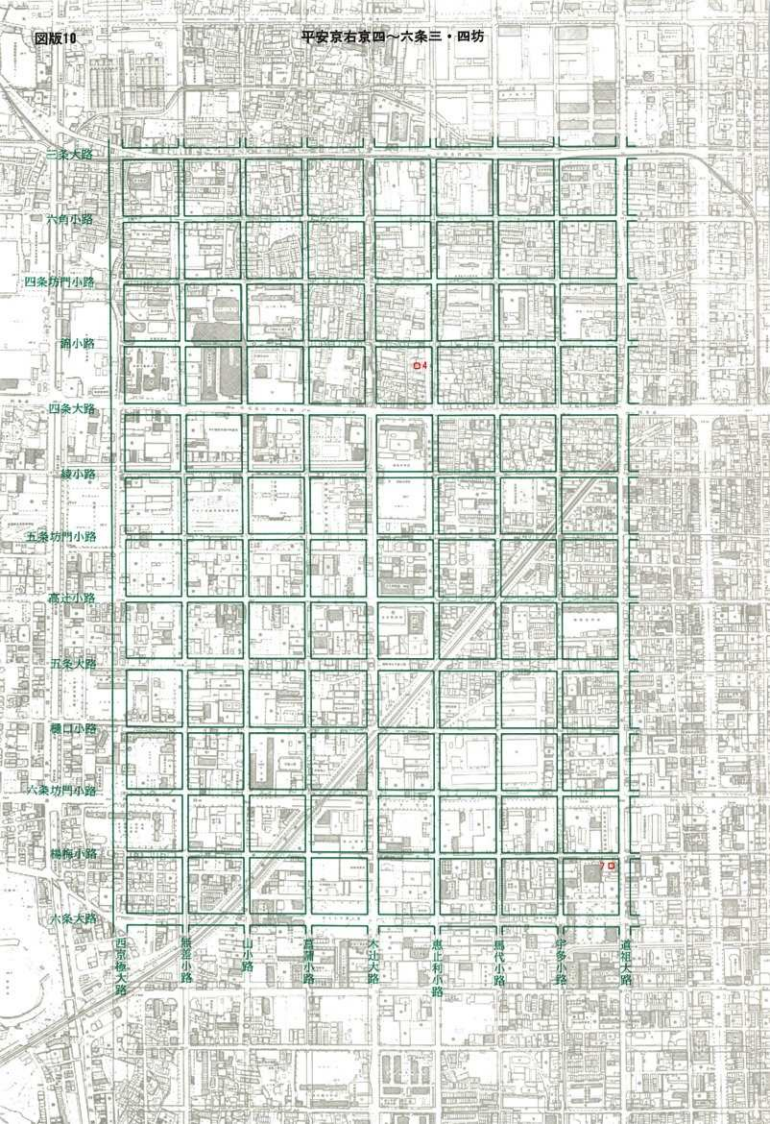
西大宮大路

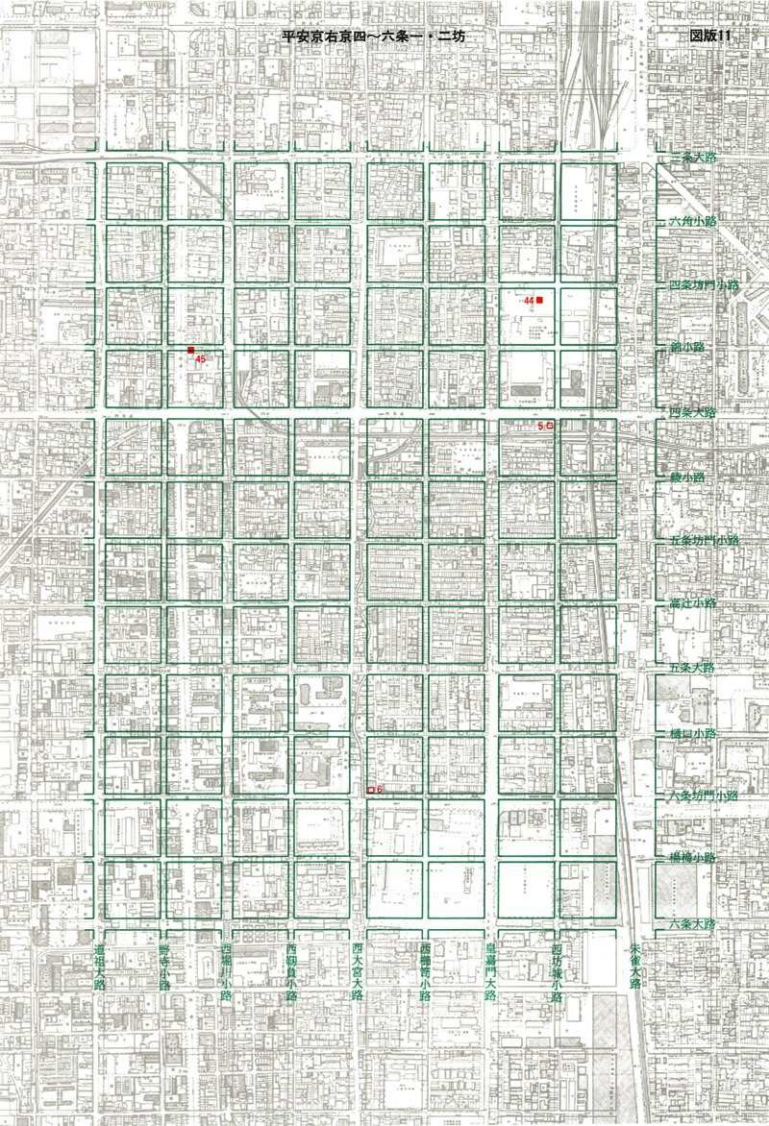
西御門大路

星置門大路

四方城小路

朱雀大路





三條大路

六角小路

四家坊門小路

館小路

西宮大路

鏡小路

五条坊門小路

高辻小路

五条大路

橋口小路

八家坊門小路

橋袴小路

六条大路

朱雀大路

西坊城小路

皇嘉門大路

西藤橋小路

西大宮大路

西朝真小路

西堀井小路

豐寺小路

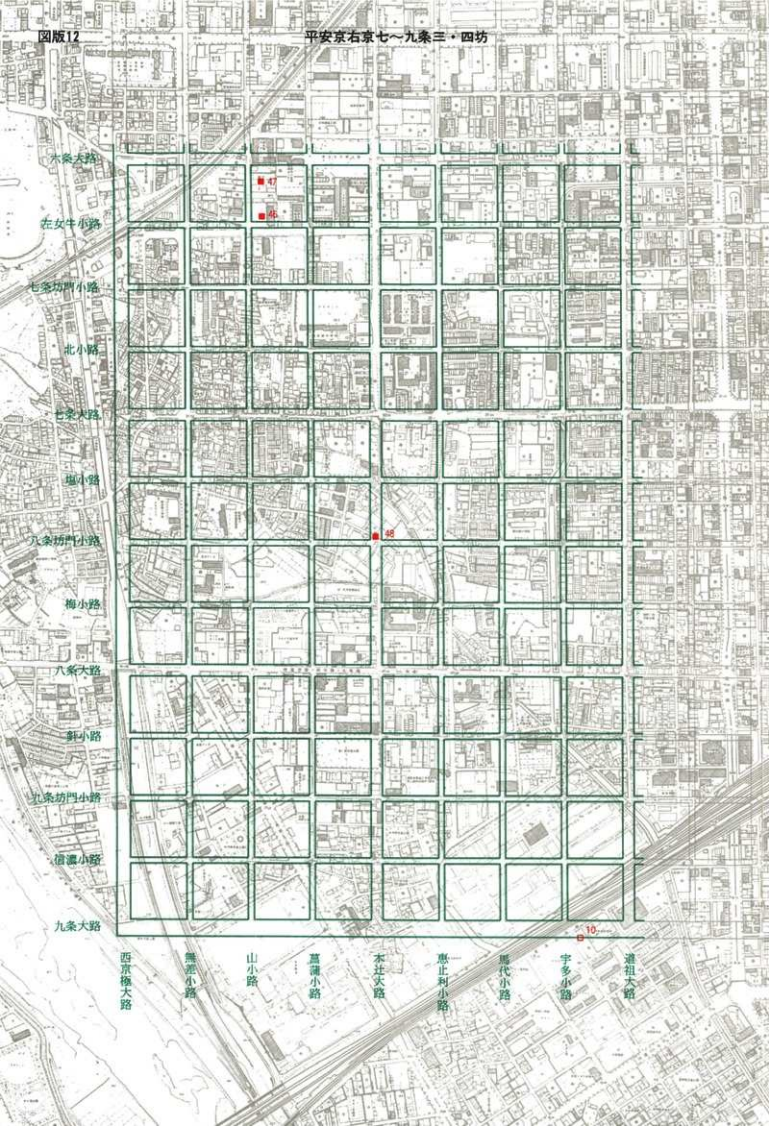
通堀大路

44

45

50

66



木条大路
 左女牛小路
 七条坊門小路
 北小路
 七条大路
 堀小路
 八条坊門小路
 梅小路
 八条大路
 斜小路
 九条坊門小路
 清澤小路
 九条大路

西京極大路
 無差小路
 山小路
 葛津小路
 本辻大路
 惠比呂小路
 馬代小路
 宇多小路
 達祖大路

47

48

98

10



六条大路

左女牛小路

七条坊門小路

北小路

七条大路

堀小路

八条坊門小路

梅小路

八条大路

針小路

九条坊門小路

稲藁小路

九条大路

道祖大路

野寺小路

西堀川小路

西願賣小路

西大宮大路

西堀筒小路

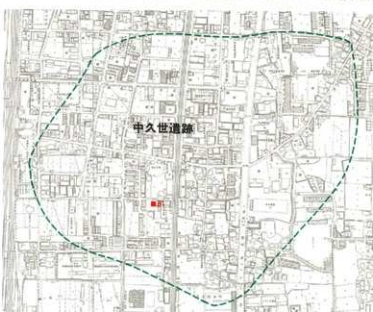
皇嘉門大路

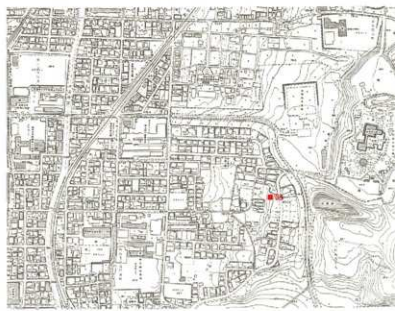
西坊藏小路

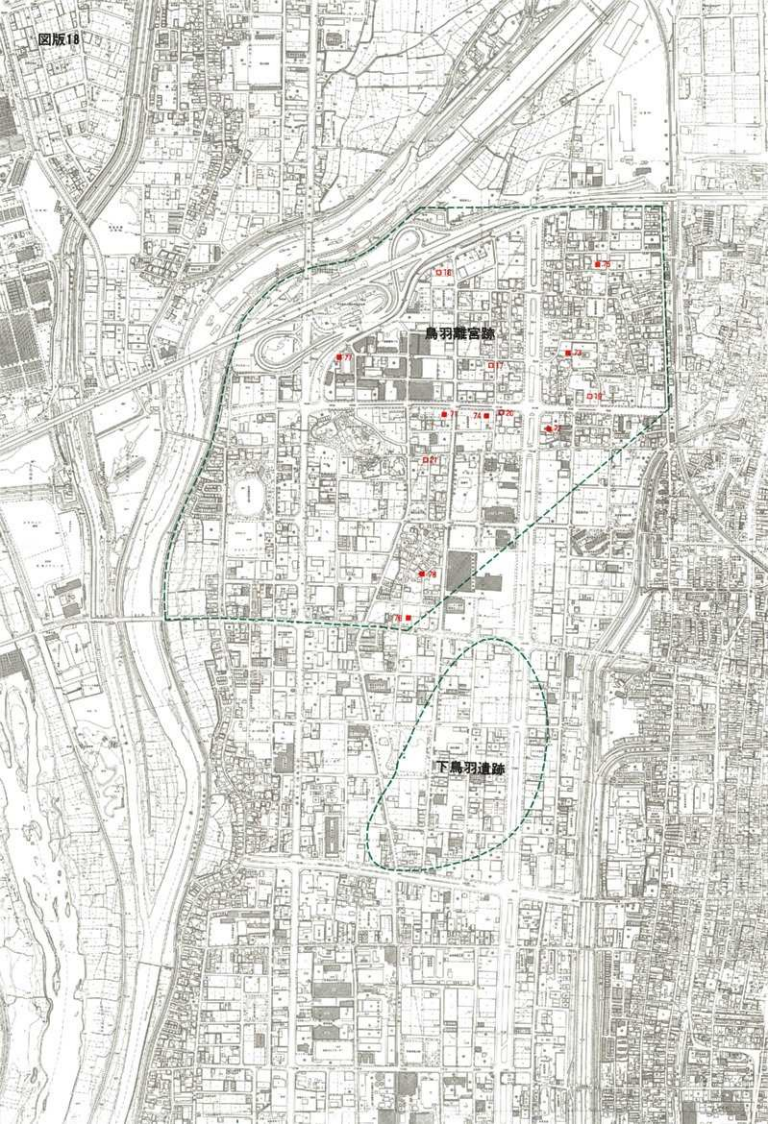
米倉大路











鳥羽離宮跡

下鳥羽遺跡



長岡京跡

21

22

23

24

京都市内遺跡試掘調査概報

平成7年度

発行日 平成8年3月31日

発行 京都市文化市民局

編集 京都市埋蔵文化財調査センター

住所 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265-1

TEL (075) 441-5261

印刷 株式会社 羅 同 朋 舎